

「民俗の地域差と地域性」研究に関連する文献目録

小島美子編

例 言

- 一 この文献目録は「民俗の地域差と地域性」に関連する研究文献を、日本民俗学を中心として、歴史学・社会学・人類学・地理学など隣接科学の文献も必要に応じて集録したものである。
- 二 収録した文献の範囲は一九九〇年までに刊行された戦後の文献を中心としたが、可能な限り戦前の文献をも収録した。
- 三 文献は(一)総論、(二)東日本・西日本論、(三)村落類型論、(四)社会組織、(五)生産・生業、(六)物質文化、(七)信仰と儀礼、(八)言語・文芸、(九)その他、に区分したが、内容が多岐にわたる場合などは便宜的に分類を行った。各論文は執筆者の五十音順に配列した。
- 四 記載の形式は雑誌論文は、筆者名・発表年・「論文題目」、『雑誌名』号、ページの順とし、著書は著者名・発行年・『書名』、発行所の順とした。

一 総論

- 網野 善彦 一九八六 「中世都市と『場』の問題をめぐって」『歴史手帳』一四  
 一、二、四〇、四〇九
- 安藤慶一郎・中田実・牧野由朗 一九七九 『地域の社会学——東海地方の社会学的研究——』税務経理協会
- 伊原 護 一九八六 「移住農村社会と道南漁村社会の年中行事」『歴史手帖』  
 一四一八、四〇〇、四七
- 石井 素介 一九八八 「西ドイツにおける『地域』概念の社会的基礎——地域主義・地域意識研究への道——」『駿台史學』七二、三  
 五〇八一
- 市川健夫・山本正三・斎藤 功編 一九八四 『日本のブナ帯文化』朝倉書店
- 市川健夫・斎藤 功 一九八四 『再考・日本の森林文化』日本放送出版協会
- 市川 健夫 一九八九 「青潮文化考——南と北からの文化複合」『地理』三四—  
 五、一七〇、二五
- 石川純一郎 一九八三 「風土と民俗——中部日本の山林における生活様式の展開とその特性——」『人類科学』三五、一五七〇—一七九
- 石塚 尊俊 一九五四 「山陰における民間伝承の地方的領域」『山陰民俗』一、  
 一六〇—二三
- 石原 昌家 一九八一 「民間伝承の地方差とその基盤」『日本民俗学会報』一六  
 一九八九 「沖繩の伝統文化の継承と発展の実態」『歴史評論』四七  
 三、二九〇—四四
- 井之口章次 一九六九 「周圏論以外」『日本民俗学会報』六〇、二五〇—二七
- 岩本 光雄 一九六三 「生体人類学からみた日本の地域性」『人類科学』一五、  
 九二〇—〇四
- 上山春平編 一九七一 『照葉樹林文化——日本文化の深層——』中央公論社
- 上山春平・佐々木高明・中尾佐助 一九七五 『続・照葉樹林文化』中央公論社
- 浮田 典良 一九八九 『日本の農山漁村とその変容』大明堂
- 大藤 時彦 一九五一 「民俗の主体性」『民間伝承』一五—一、二〇—七
- 大貫 俊 一九六七 「地域性と階層性」『人類科学』一九、五八〇—七二
- 大野晋・祖父江孝男編 一九七八 『日本人の原点——文化・社会・地域差——』  
 (現代のエッセプリ・臨時増刊号) 至文堂
- 大林 太良 一九八四 「日本文化の地域性をめぐって——文化領域設定のための予備的考察——」『列島の文化史』一、一八六—二〇  
 七
- 大本 憲夫 一九九〇 「富士見市域における民俗の変差と変化」『富士見市史研  
 究』三、三〇—四五
- 岡 正雄・蒲生正男・村武精一・坪井洋文 一九六二 「東日本海岸部における文化複合」『日本人類学会・日本民族学協会連合大会第  
 一六回紀事』七七—八四
- 岡橋 秀典 一九八九 「現代日本における山村研究の課題と展望」『人文地理』  
 四一—二、四四—七二
- 小川 徹 一九六六 「わが国社会・文化現象の地理的研究について——方法論的反省——」『人文地理』一八一—二、一〇—一九
- 一九六九 「周圏論に対するコメント」『日本民俗学会報』六〇、二  
 一〇—二三
- 大給 近達 一九五七 「日本文化の地域性とその構造的な理解」『民族学研究』二  
 一—三、一九九—二〇六
- 小野 重朗 一九六三 「民家の構造と周圏論」『日本民俗学会報』二九、一—  
 七
- 一九六五 「民俗分布の同心圏構造について」『日本民俗学』三七、  
 二五—二八
- 一九六九 「実践的周圏論を」『日本民俗学会報』六〇、二三—二  
 四
- 一九七〇 『海と山との原郷——南島文化二元論』木耳社

- 一九七〇 「民俗地図の構造」『農耕儀礼の研究——南九州における  
 発生と展開——』弘文堂、七〇—一三〇
- 一九七四 「河童の系譜と山の神」『日本民俗学』九三、一〇—一三〇
- 一九七八 「地域研究」『講座日本の民俗』一、有精堂、六二—八〇
- 一九七九 「コトとその周囲」『日本民俗学』一一〇、一〇—二七
- 一九七九 「民俗地図による地域研究」『日本民俗学』一二一、三七  
 〇—四四
- 一九八四 「ホダレヒキ系年占と周囲論」『日本民俗学』一五三、一  
 〇—一五
- 加藤 秀俊 一九六七 『車窓から見た日本』日本交通公社出版事業部
- 河出書房新社編集部編 一九八三 『県別日本人気質』河出書房新社
- 種山 貞登 一九六四 「県民性について」『人類科学』一六、五〇—六一
- 河上 一雄 一九七八 「民俗地図」『講座日本の民俗』一、有精堂、一三五—  
 四九
- 喜多川忠一 一九八一 「国民性の自覚的形成(三)」『群馬大学教育学部紀要・人  
 文・社会科学編』三一、一八七—二二七
- 北見 俊夫 一九七六 「奄美民俗の地位」『人類科学』二八、三九—四九
- 一九七八 「川と民俗文化」『日本民俗学』一一六、一—二三
- 『日本海上交通史の研究——民俗文化史的考察——』鳴  
 風社
- 木下 忠 一九七五 「民俗地図をめぐる」『民俗学評論』一三、三—一  
 一
- 木村 隆之 一九八六 「過疎化と地域労働市場の構造——島根県匹見町の事  
 例——」『山陰地域研究』(農山村) 島根大学山陰地域研  
 究総合センター 二、一九—三一
- 木村 礎 一九七七 「日本歴史における『地方』と『中央』——地域論によ  
 せて——」『駿台史学』四二
- 九学会連合日本の沿岸文化調査委員会 一九八九 『日本の沿岸文化』古今書院
- 九学会連合共同討議 一九九〇 『地域文化の均質化』『人類科学』四二
- 倉石 忠彦 一九七九 「民俗分布図と民俗地図と」『長野県民俗の会会報』二、  
 四六—六〇
- 一九八九 「民俗学における地域認識と地域差」『國學院雑誌』九〇  
 一—二、八九—一一〇
- 一九九〇 「民俗分布図と地域区分」『信濃』四二—九、三—四三
- 黒川 正宏 一九五六 「中世海縁村落の社会構造」『史学研究』六一、三—四  
 六
- 小林 寛義 一九八四 「長野県の地域性」『信濃』三六—二、八四—九四
- 小牧 實繁 一九三七 「地理学と民俗学」『近畿民俗』二—一、二—一七
- 齋藤 毅 一九八五 「沿岸地域の知覚環境の二元性に関する地理学的研究  
 ——『山たて』と『雨乞い』の場合——」『人類科学』  
 三七、八一—九九
- 齋藤 光格 一九八九 「社会地理学再考——研究の枠組みおよび社会学と心理  
 学への応用」『文化學年報』八、三七—七七
- 桜井徳太郎 一九七二 「歴史民俗学の構想——郷土における民俗像の史的複元  
 ——上・下」『信濃』二四—八・九、一—一七、一八  
 〇—三七
- 桜田勝徳・宮本常一 一九五八 「日本民俗の地域的性格」『日本民俗学大系』二  
 平凡社、五七—八〇
- 佐々木高明 一九七一 『稲作以前』日本放送出版協会
- 一九八二 『照葉樹林文化への道——ブータン・雲南から日本へ  
 ——』日本放送出版協会
- 佐藤 亮一 一九八六 「沿岸と内陸との対立分布について——遠州灘沿岸地域  
 における準備調査の結果を中心に——」『人類科学』九  
 学会連合 三八、七一—一〇三
- 山陰民俗学会 一九八四 「シンポジウム『民俗の地域差』」『山陰民俗』四三、  
 二—四九
- 柴田 武 一九七八 「方言周囲論」『講座日本の民俗』一、有精堂 四二—六

- 一
- 下野 敏見 一九八〇 「南西諸島の研究法について」『南西諸島の民俗』 法政大学出版局、二〇六
- 一九八〇 「南日本の有形資料と基層文化」『南西諸島の民俗』 法政大学出版局、七〇二
- 一九八一 「二つの文化——奄美と鹿児島——」『南西諸島の民俗』 法政大学出版局、五二〇～五二二
- 鳥津 俊之 一九八九 「村落空間の社会地理学的考察——大和高原北部下狭川を例に——」『人文地理』四一―三、一〇二
- 成城大学民俗学研究所 一九九〇 『昭和期山村の民俗変化』 名著出版
- 関 敬吾 一九七五 「民俗研究における民俗地図の問題」『民俗学評論』一三、一六〇四
- 祖父江孝男 一九七一 『県民性』 中央公論社
- 一九七八 「解説・日本人——文化・社会・地域差——」『日本人の原点——文化・社会・地域差——』 二（現代のエスプリ）至文堂、五〇二
- 一九八一 「県民性再考——文章完成法テストにあらわれた日本人パソナリティの地域差」『国立民族学博物館研究報告』六一―二、二二七～二三三
- 田岡 香逸 一九六二 「古習の残存——日本民俗学の直面するもの——」『民俗』六一―一、三〇七
- 高取 正男 一九六五 『地域差』について『日本史研究』七九、六四～六七
- 竹田 且 一九七五 「沖縄民俗の地域差における特色」『人類科学』二七、一八七～一八九
- 玉野 和志 一九八七 「生活構造の自立性と『地域』の意味——伝統型消費都市・松阪を事例として——」『社会学評論』日本社会学会 三八―一
- 千葉 徳爾 一九四二 「民俗と地域性」『民間伝承』七五、一〇
- 一九四二 「青年思想の地方差に就いて」『地理学評論』一八―八、九〇三
- 一九五九 「民俗圏論の展開」『日本民俗学会報』九、一二～一五
- 一九六一 「地域の大きさについて」『信州大学教育学部研究論集』一一
- 一九六三 「民俗圏論の検討」『日本民俗学会報』二七
- 一九六三 「民俗学における地域性の問題」『人類科学』一五、七九
- 一九六四 「民俗の地域差と地域性」東京教育大学昭史会編『日本歴史論究・考古学民俗学編』文雅堂銀行研究社、八七～一〇三
- 一九六四 「志摩半島における民俗の地域差とその意味——予察的報告——」『人文地理』一六―五、一〇四
- 一九六五 「民俗の地域性」和歌森太郎編『志摩の民俗』吉川弘文館、四六～六九
- 一九六六 「民俗と地域との関連」和歌森太郎編『若狭の民俗』吉川弘文館、一五～三四
- 一九六六 「民俗と地域形成」風間書房
- 一九六九 「陸前北部における民俗の地域性」和歌森太郎編『陸前北部の民俗』吉川弘文館、二七～三五
- 一九七〇 『地域と伝承』大明堂
- 一九七五 『地域と民俗文化』大明堂
- 一九七六 「地域研究と民俗学——いわゆる『柳田民俗学』を超えるために——」『日本民俗学講座』五 朝倉書店、八六～一五〇
- 一九八〇 千葉徳爾編『日本民俗風土論』弘文堂
- 一九八〇 「民間習俗の分布と青年心意の地域性」『地理』五一―
- 一九七一 「幕藩制下の地域区分について」『信濃』二三―一二、一
- 塚本 学 一九七一 「幕藩制下の地域区分について」『信濃』二三―一二、一

- 〓三三
- 一九八三 「日本史における中央と地方」『千葉史学』三、一七〇—三三
- 一九八四 「江戸における中央と地方——荻生徂徠『政談』を手がかりに——」『思想』七二六、四五〇—五九
- 津波 高志 一九九〇 『沖繩社会学ノート』第一書房
- 坪井 洋文 一九八〇 「ヤマとサトの民俗学」『神道宗教』一〇〇、七一〇—七八
- 一九八九 『神道の神と民俗的神』未来社
- 戸川 安章 一九七三 「川と人生」『日本民俗学』八五、七九〇—八三
- 富田祥之亮 一九八八 「農家の世帯規模の地域差とその特質——農山漁村地域の地域性・古くて新しい課題」『農村生活総合研究』農村生活総合研究センター 六、六一〇—六一
- 長島 信弘 一九八五 「米山俊直氏の『日本文化の地域性をめぐって』を読んで」『民族学研究』五〇—一、一一三—一二四
- 中田 栄一 一九六六 「地域変貌の動因と地理的条件」『人類科学』一八、三〇〇—三〇四
- NHK放送世論調査所編 一九七九 『日本人の県民性——NHK全国県民意識調査——』日本放送出版協会
- 農村生活総合研究センター 一九八三 『地域社会指標の特性と地域社会指標による地域類型——農村地域における社会指標策定に関する研究・中間報告——』
- 野本 晃史 一九五九 「温泉集落の立地と発展」『史学研究』（広島史学研究会）七二、四四〇—四五六
- 橋本 武 一九七七 「民俗地図上の断層」『福島の民俗』五、五〇—五四
- 埴原 和郎 一九八七 「太平洋側・日本海側の人類学的考察——日本人の形成に関連して——」『人類科学』九学会連合 三九、一〇—一三
- 樋口 清之 一九八一 「日本文化の多様性」『風俗』二〇—一、一九〇—四〇〇
- 平田 順治 一九八二〇五 「民俗における社会の封鎖性と風土」二〇—二 『熊本大学文学部論叢』四・一六、三四〇—三四四、八七〇—八七四
- 平山 和彦 一九六九 「周圏論をめぐる諸問題」『日本民俗学会報』六〇、一五〇—一五二
- 福田アジオ 一九九〇 「山村民俗の均質化」『人類科学』四二、九〇—一二
- 一九六九 「周圏論の歴史」『日本民俗学会報』六〇、一三〇—一三五
- 一九八二 「方言周圏論と民俗学」『武蔵大学人文学会雑誌』一三—一四、一六七—一八八
- 藤田 稔 一九七五 「茨城民俗の地域性」『茨城県歴史館報』二、一八〇—一八三
- 藤竹 暁 一九九〇 「都市化社会における多様性と均質性」『人類科学』四二、一三〇—一三六
- 藤本 利治 一九八九 『歴史時代の集落と交通路』地人書房
- 牧野 洋一 一九六八 「山村の地域構造——宮崎県東臼杵郡椎葉村を例に——」『史学研究』一〇二、五六〇—五七〇
- 馬瀬 良雄 一九七七 「方言周圏論再考」『言語生活』三二二、一八〇—二〇〇
- 丸井 文男 一九六三 「パーソンナリティからみた日本の地域性」『人類科学』一五、二二〇—二二四
- 水津 一朗 一九五八 「地域論」の機能主義的展開『地理学評論』三〇—一〇、一〇—一四
- 宮田 登 一九七四 「地域民俗学への道」和歌森太郎編『日本文化史学への提言』
- 宮本 常一 一九五九 「身辺の中にある歴史」『芸備地方史研究』三〇、五〇—五二
- 〇
- 一九六七 「日本の中央と地方」『宮本常一著作集』二 未来社
- 一九六七 「風土と文化」『宮本常一著作集』三 未来社
- 宮本 又次 一九七一 「関西文明と風土」至誠堂
- 村田喜代治 一九五八 「地域論における問題点」『地理学評論』三一—四、二二〇—二二三

- 村松常雄編 一九六二 『日本人』黎明書房
- 森川 洋 一九六七 「明治初年における広島県の都市とその機能」『史学研究』九九、一〇二二
- 森谷 尠久 一九六六 「国民文化の形成をめぐって」『芸能史研究』二二、二四〇—二四三
- 柳田 国男 一九二七 「蝸牛考」『人類学雑誌』四二、四七—五七、一二五—一三五、一六二—一七二、二二三—二三三、二七三—二八四
- 一九四三 『蝸牛考』『定本柳田国男集』一八 一九六九 筑摩書房 一—一三六
- 山口麻太郎 一九四九 「民間信仰の地域性について」『民間伝承』一三一—一四〇、一五—一九
- 山口 貞夫 一九三四 「日本民俗の地理的性格」『地理と民俗』生活社、五—三六
- 山口弥一郎 一九四三 「本州島の北端東北地方の特性」『日本の地誌』四月号
- 『山口弥一郎選集』二一、一九八〇 世界文庫、三三七—三五五
- 米山 俊直 一九八五 「日本文化の地域性をめぐって」『民族学研究』四九—四、三八—三九四
- 龍 仁 一九八一 『日本の風土と地域性』セントラル・プレス
- 和田 正洲 一九八三 「民俗資料の地域的考察——トージン・ダイカイを中心に——」『風俗』二二三—三、四七—五六
- 二 東日本・西日本論
- 網野 善彦 一九八二 『東と西の語る日本の歴史』(そしえて文庫七)そしえて池上 年 一九六三 「石塔の形式から見た関東関西の境」『民間伝承』二七—二九〇—九四
- 泉 靖一・長島信弘 一九六三 「家督相続から見た日本の東と西」『解釋と鑑賞』三三三、一二一—一二六
- 泉 靖一・大給近達・杉山晃一・友枝啓泰・長島信弘 一九六三 「日本文化の地域類型」『人類科学』一五、一〇五—一三一
- 白井竹次郎・方波見重兵衛・金子 功 一九七二 「東は東・西は西——本籍地三ブロック別ならびに東西日本の初婚夫妻の組合せ——」『日本医事新報』五月号
- 『日本人の原点——文化・社会・地域差』二、一九七八 至文堂、一五五—一六〇
- 海野 福寿 一九九〇 「静岡県の産業と文化——その地域性について」『静岡県史研究』六、一四九—一六六
- 大川 健嗣 一九七三 「東日本と西日本における『過疎』山村の比較研究——山形県西川町と徳島県西祖谷山村との比較——」『村落社会研究』九
- 大野 晋 一九六三 「日本の東部と西部の言葉の違い」『人類科学』一五、一三二—一三七
- 大野 晋・宮本常一 一九八一 『東日本と西日本』日本エディタースクール出版部
- 大林 太良 一九九〇 『東と西 海と山——日本の文化領域』小学館
- 上横手雅敬 一九六三 「中世日本の東と西」『解釋と鑑賞』三三三、五三—五九
- 川副 博 一九三六 「東日本と西日本」『歴史地理』六八四、八九—九二
- 一九三六 「再び東日本と西日本に就いて(北国の地名に関する修補)」『歴史地理』六八一—五、八三—八四
- 金田一春彦 一九五四 「東西のアクセントができるまで」『文学』二二—八、六三—八四
- 一九六三 「アクセントの分布と日本の東と西」『解釋と鑑賞』三三三、八四—九〇
- 児玉作左衛門 一九六三 「アイヌと東日本」『解釋と鑑賞』三三三、一四〇—一四六

- 佐藤 昭夫 一九六三 「彫刻から見た日本の東と西」『解釋と鑑賞』三三三、一  
二七～一三二
- 沢 寿次 一九七二 「東日本と西日本」梅棹忠夫・多田道太郎編『日本文化  
の構造——論集・日本文化——』講談社、一七三～一七  
九
- 新城 常三 一九六六 「中世前期に於ける西国・東国間の文化交流とその前提」  
『九州文化史研究所紀要』一一、四一～六四
- 高橋 富雄 一九七二 『日本史の東と西』創元社
- 竹田 且 一九五四 「末子相統考」『日本民俗学』三、四一～六五
- 都出比呂志 一九八六 「弥生時代住居の東と西」『日本語・日本文化研究論集  
(共同研究論集)』(大阪大学文学部)三、九五～一二四  
(言葉・西と東)(日本語の世界八) 中央公論社
- 徳川 宗賢 一九八一 『言葉・西と東』(日本語の世界八) 中央公論社
- 長島 信弘 一九六四 「日本文化の地域的差異(二)——村落社会に関する統計的  
研究——」『人類科学』一六、八七～一〇三
- 中野 尊正 一九六三 「人文地理学から見た日本の東と西」『解釋と鑑賞』三三  
三、一〇二～一〇九
- 林屋辰三郎 一九七四 『日本文化の東と西』講談社
- 福田アジオ 一九八四 「民俗の母体としてのムラ」『日本民俗文化大系』八 小  
学館、三一～八〇
- 福武 直 一九四九 『日本農村の社会的性格』東京大学出版会
- 藤井 正雄 一九六三 「宗教の分布から見た日本の東と西」『解釋と鑑賞』三三  
三、一一〇～一二〇
- 藤島亥治郎 一九六三 「建築から見た日本の東と西」『解釋と鑑賞』三三三、一  
三三～一三九
- 宮本 常一 一九六三 「民俗から見た日本の東と西」『解釋と鑑賞』三三三、九  
一～一〇一  
(『宮本常一著作集』三 一九六七 未来社、八一～一〇  
三)
- 宮本 又次 一九八二 『関西と関東』青蛙房
- 望月 勝海 一九五〇 「西南日本・東北日本について」『地理学評論』二二一  
一、二五～二六
- 脇田 修 一九六三 「近世日本における東と西」『解釋と鑑賞』三三三、六〇  
～六五
- 渡辺 良雄 一九六四 「機能地域からみた日本の東と西」『人類科学』一六、一  
〇三～一一三
- 三 村落類型論
- 藍沢 弘 一九八四 「都道府県における農村地域の動態類型に関する研究」  
『変貌する農村——生活・文化と農業経営——』(現代の  
エスプリ)二〇三、一七四～一八五
- 青沼 吉松 一九五四 「漁村社会の構造——K町の鰯揚操網漁業について——」  
『社会学評論』四一・二、四六～七三
- 赤嶺 政信 一九八三 「沖繩久高島の『門中制』——久高志摩村落祭祀組織理  
解のための予備的考察」『民族学研究』(日本民族学会)  
四七・四、三三六～三五五
- 石井英也・加賀美雅弘ほか三名 一九八六 「鹿島砂丘地帯における地域進化の  
一類型——波崎町若松地区・須田の場合——」『地域調  
査報告』(筑波大学地球科学系人文地理学研究グループ)  
八、二三～四三
- 泉 靖一・蒲生正男 一九五二 「日本社会の地域性」『日本地理新大系』河出書  
房、三七～七六
- 磯田 進 一九五一 「村落構造の二つの型」『法社会学』一、五〇～六四
- 磯田 進編 一九五五 『村落構造の研究』東京大学出版会
- 上原 秀明 一九八二 「農村社会の空間構造とその変容に関する一考察」『人文  
地理』三四・六、二二～四九



- 江守 五夫 一九六六 「社会構造——村落の社会組織に関する研究の回顧——」  
『日本民族学の回顧と展望』民族学振興会
- 一九六六 「同族共同体の構造分析」『明治大学社会科学研究所紀要』四
- 岡崎 秀典 一九七六 『日本村落社会の構造』弘文堂
- 一九八六 「わが国における山村問題の現状とその地域的性格——計量的手法による考察」『人文地理』人文地理学会 三八一五、七五〇九三
- 小川 徹 一九五八 「村の諸類型」『日本民俗学大系』三 平凡社、七七〇九二
- 小沢 真秀 一九八六 「開拓村落と地域集団」『歴史手帳』一四一九、四一〇四六
- 蒲生 正男 一九六〇 『日本人の生活構造序説』誠信書房
- 一九六六 「戦後日本社会の構造的変化の試論」『政経論叢』三四一六、一〇二六
- 一九七九 「日本のイエとムラ」『東アジア——日本・中国・朝鮮——』(世界の民族一三) 平凡社、二二〇四三
- 一九八二 「日本の伝統的社会構造とその変化について」『政経論叢』五〇一五・六、一一〇二八
- 川島 武宜 一九五七 『イデオロギーとしての家族制度』岩波書店
- 河村 望・蓮見音彦 一九五八 「近代日本における村落構造の展開過程——村落構造に関する『類型』論の再検討——」上・下『思い出』四〇七・四〇八、五五七七一、八七七一〇三
- 高坂 綱二 一九八七 「考古学的方法による静岡県の地域区分」『静岡県史研究』(静岡県教育委員会文化課県史編さん室)三、二九〇五三
- 小内 透 一九八七 「戦後日本資本主義の発展と地域社会類型変動——全都道府県・市町村分析からみた地域的不均等発展の諸相
- 北島 正元 一九五二 「封建制下の越後の農村」『頸城文化』一、六〇一〇
- 斎藤 吉雄 一九五五 「漁村の部落構造分析への一試練——宮城県雄鹿郡女川町塚浜部落の場合——」『社会学評論』五一二、二九〇四六
- 佐藤 利明 一九八七 「戦後分家の成立過程と漁業村落——三陸沿岸一漁村の事例」『社会学評論』三八一三、四七〇六三
- 清水 昭俊 一九七〇 「八家」の内的構造と村落共同体——出雲の八家」制度・その一——『民族学研究』(日本民族学協会)三五一三、一七七〇二五
- 住谷 一彦 一九六三 「日本農村社会学の『共同体論』分析——経済学と社会学の接点についての覚え書」『共同体の史的構造論——比較経済社会学的試論——』有斐閣、三三五〇三八一
- 一九六五 「日本の村」序論」『思想の科学』三九、二〇七
- 関戸 明子 一九八九 「日本人の原点——文化・社会・地域差」一九七八 至文堂、五〇〇六三
- 千葉 徳爾 一九五八 「山村の問題」『地方史研究』三二
- 一九六九 「陸前北部における民俗の地域性」和歌森太郎編『陸前北部の民俗』吉川弘文館 二七〇三五
- 富田祥之亮 一九八八 「農家の世帯規模の地域差とその特質——農山漁村地域の地域性・古くて新しい課題」『農村生活総合研究』農村生活総合研究センター 六、六一〇八一
- 野本 晃史 一九五九 「温泉集落の立地と発展」『史学研究』(広島史学研究会)一九八六 「山・漁村の体形の比較」『人類科学』九学会
- 植原和郎・河内まき子

連合 三八、一〇五〜一二二

福武 直 一九四九 『日本農村の社会的性格』東大出版会

一九五九 『日本村落の社会構造』東大出版会

宮良 高弘 一九八九 『北海道の文化複合——もう一つの日本文化論』『地理』

三四一九、六八〜七五

松本 雅明 一九六三 『近世村落の成立と展開——熊本県下益城郡城南町につ

いて——』『民族学研究』(日本民族学協会)二七—二、

一三〜二九

柳田 国男 一九二二 『郷土誌論』郷土研究社(『定本柳田国男集』二五、一九

六四、筑摩書房)

山下 博 一九八四 『薩摩藩近世村落の一考察 門割からみた村落構造——

今釜中の事例——』『隼人文化』一四、一五〜二八

四角 恒世 一九七七 『婚姻儀礼と村落構造——南会津伊南村青柳と松枝岐の

比較——』『日本民俗学』一一一、三五〜四四

渡邊 澄夫 一九五三 『大和平野における環濠聚落の形成と郷村制との関係

——大乗院領大和国若槻庄を中心として——』『史学研究』五〇、一一七〜一三四

#### 四 社会組織

合田 栄作 一九五七 『四国地方の縁組移動者構成の地域類型』『地理学評論』

三〇—四、二九〇〜三〇一

青木 治 一九五二 『農村社会における通婚圏と文化の浸透度』『信濃』四

一、六五〜七三

荒居 英次 一九六〇 『郷村制と漁村』『歴史地理』八九—四、四三〜五三

安藤慶一郎 一九六二 『東美濃・奥三河地方の同族祭祀』『信濃』一四—二、五

四〜五九

飯島 茂 一九八七 『日本列島の文化における沿岸性——養取への接近を通

して——』『人類科学』九学会連合 三九、一五〜二三

一九八六 『日本列島沿岸文化に見る非系原理と単系原理——南西

諸島における養取形態への接近を通して——』『人類科

学』(九学会連合)三八、一二三〜一三三

石原 潤 一九六四 『ムラの中の小地域集団について』『人文地理』一六—二、

一〇二〜一一〇

磯崎 優 一九三八 『農村の地域区分』『地理学評論』一四—六、九五〜九七

磯田 進 一九五四〜五 『農村における擬制的親子関係について——特に村

落構造との関係において——』一・二・三 『社会科学

研究』五—三・四、六一—、三六〜五九、三三〜五一、

七三〜九三

板沢 武雄 一九五七 『南部藩に於ける沿岸富豪の一形態——吉里々々前川家

の場合——』『歴史地理』八七—一・二、二三〜五三

石川 渡 一九四一 『越中平野に於ける地形区分と村落景觀』『地理学評論』

一七一—、一〜一九

伊藤 幹治 一九六二 『八重山群島における兄弟姉妹を中心とした親族関係』

『民族学研究』(日本民族学協会)二七—一、七〜二二

伊東多三郎 一九四二 『隠居習俗小論』『歴史地理』七九—二、一〜二〇

三三〜三五七

上野 和男 一九七四 『擬制的親子関係と村落構造』『講座家族』六 弘文堂、

三四三〜三五七

一九七五 『日本村落社会における親分子分関係の構造』『政経論

叢』四三—六、六五〜一〇一

一九八二 『日本の祖名継承法と家族——祖先祭祀と家族類型につ

いての一試論——』『政経論叢』五〇—五・六、二四九

〜三二一

一九八四 『日本の位牌祭祀について——『位牌分け』を中心とし

て——』『長野県民俗の会会報』七、一〜一六

一九八四 『家族の構造』『日本民俗文化大系』八 小学館、四〇九

- 〓四五四  
 一九八四 「大家族・小家族・直系家族——日本の家族研究の三つの系譜——」『社会人類学年報』一〇、二九〓五〇  
 一九八五 「日本の位牌祭祀と家族——祖先祭祀と家族類型についての一考察——」『国立歴史民俗博物館研究報告』六、一七三〓二四九  
 牛島 敏 一九六六 「ハイハイ〓祭祀と日本の家族・親族——伊豆諸島・利島を中心として——」『民族学研究』（日本民族学協会）三一一〓、一六九〓一七八  
 梅崎 秀治 一九五五 「大和に於ける分村の集落地理学的研究」『人文地理』七〓三、三二〓四二  
 江頭恒治・小沢真理子 一九六〇 「宗門帳から見た近江の通婚圏」『社会と伝承』四一一、一〓一七  
 江守 五夫 一九七五 「村落類型論からみた農村家族の構造」『社会科学研究』二六〓三、四、七〇〓九九  
 老泉 俊樹 一九八六 「村落組織の構造と機能——鹿児島県加治木町木田の研究——」『日本民俗学』（日本民俗学会）一六三、六八〓七八  
 大越 勝秋 一九五六 「和泉における宮座の分布と形態」『日本民俗学』三十三、八七〓九五  
 一九六二 「和泉の宮郷の分布と成立」『人文地理』一四一六、二〇〓三六  
 小野 重朗 一九七八 「薩摩の山村にみる養子慣行」『日本民俗学』一一四、二二〓三六  
 大橋 松行 一九八二 「農村社会の政治風土(一)——滋賀県湖北地域の地元意識と政治的保守——」『佛大社会学』七、一〓二〇  
 一九八四 「農村社会の政治風土(二)——自治会・町内会の機能的多元性と政治保守性を中心に(一)——」『佛大社会学』九、一〓二三  
 一九八五 「農村社会の政治風土(三)——戦後農政と農村・農民を中心に——」『佛大社会学』一〇、一〇〓二四  
 岡村 益 一九六七 「阿武隈山地の隠居慣行——その実態と機能——」『社会学評論』一八一〓、七八〓一〇一  
 小川 徹 一九六二 「南西諸島における親族呼称」『民族学研究』（日本民族学協会）二七一〓、五四〓六一  
 一九六五 「南西諸島における親族集團呼称の若干に関する年代論的知見——社会地理学的方法による一つの試み——」『民族学研究』（日本民族学協会）三〇一〓、一〓一四  
 大胡 欽一 一九六二 「北部沖繩の社会組織——伊平屋島田名の社会人類学的研究——」『民族学研究』（日本民族学協会）二七一〓、三七〓四七  
 柿本典昭・須古勇輔 一九六七 「富山湾岸の漁村の地理学的一考察——主として東西二つの漁村の対比から見た場合——」『人文地理』一九一四、二八〓五八  
 片山 一道 一九八三 「内婚率を指標とした日本の農漁村地域での集團構造の比較」『人類科学』三五、一〓二七  
 神前 進一 一九八二 「近世越中における無家村の地域論的考察」『人文地理』三四一〓、二七〓四七  
 蒲生 正男 一九五三 「同族組織と年齢階級組織」『日本人類学会・日本民族学協会連合大会第八回紀事』六四  
 一九五五 「日本に於ける婚姻と家族の類型」『日本人類学会・日本民族学協会連合大会第九回紀事』七九〓八一

- 一九五八 「親族」『日本民俗学大系』三 平凡社、二三三〜二八八
- 一九六二 「日本人の婚姻と親族体系」『文科系学会連合研究論文集』一二、七三〜七六
- 一九六四 「産屋・他屋の文化とその主体的条件」『石田英一郎教授還暦記念論文集』角川書店、四五〜五六
- 一九六六 「戦後日本社会の構造的変化の試論」『政経論叢』三四一六、一〜二六
- 一九六八 「日本の婚姻体系」祖父江孝男編『文化人類学リーディングス』誠信書房、九七〜一〇〇
- 一九六八 「日本の親族組織」賞書——Descent group と同族に關連して——『社』二一四、八〇〜八五
- 一九七〇 「日本の伝統的家族の一考察」『岡正雄教授古稀記念論文集・民族学からみた日本』河出書房新社、四九〜七六
- 一九七四 「解説・人間と親族」『人間と親族』（現代のエスプリ八〇、五〜二六
- 一九七五 「八家」の再検討を目ざして『九州人類学会報』三、一〜四
- 一九八一 「奈良県東北部における神社祭祀と村落構造」坪井洋文編『祭祀の世界と村落——儀礼・司祭者・共同体——』四九〜五五
- 一九八三 「奄美の親族組織と社会構造」『奄美の神と村』（現代のエスプリ）一九四、三六〜四九
- 蒲生正男・村武精一・坪井洋文 一九六三 「青ヶ島の社会と民俗」『岡正雄教授還暦記念論文集・民族学ノート』一三〜六二
- 蒲生正男・坪井洋文・村武精一編 一九七五 『伊豆諸島——世代・祭祀・村落——』未来社
- 河島 一仁 一九八三 「出稼職人の集団構造とその地域的展開」『人文地理』三五一六、一九〜三六
- 河田 光夫 一九八六 「古代中世の猟漁民」『京都部落史研究所紀要』六、二〜四二
- 喜多野清一 一九五〇 「對馬村落の研究(一)——對馬西岸旧神社領村落の社会構造——」『九州文化史研究所紀要』一、四三〜六四
- 一九五七 「對馬村落の研究(二)——ソシ考——」『九州文化史研究所紀要』六、七一〜九一
- 小松 秀雄 一九八九 「苗制と頭組制の共存——香川県三豊郡仁尾町の祭祀——」『香川大学教育学部研究報告第一部』七六、一〜二七
- 近藤 忠 一九五七 「紀州の近世における地方行政区画の変遷と村落の分合」『人文地理』九一、一〜一五
- 一九五九 「紀州における藩政村の村域の広狭と集落構成」『人文地理』一一一、二一六〜二六
- 佐藤 守 一九六七 「村落における青年集団の変容——伊豆漁村の事例——」『社会学評論』一八一三、三九〜五七
- 清水 浩昭 一九八四 「農村老人の居住形態——宮城県志波姫町と鹿児島県大浦町の比較研究」『変貌する農村——生活・文化と農業経営』（現代のエスプリ）二〇三、四四〜六〇
- 清水 昭俊 一九七二 「八家」の親族——家成員交替過程——出雲の八家」制度。その二——『民族学研究』（日本民族学会）三七〜三三、一八六〜二二三
- 関 敬吾 一九六二 「琉球村落の親族組織と神人制度——島尻郡兼城を中心として——」『民族学研究』（日本民族学協会）二七一、二六〜三六
- 白石 太良 一九七六 「近世郷域と明治地方行政領域との空間的整合関係」『人文地理』二八一六、三三〜五六
- 関口 武・森藤勝元 一九四三 「村落通婚圏に関する諸問題その一、村落の機能による通婚圏の相違——島根半島中部諸村落の例——」

- 『地理学評論』一九一八、一〇二〇
- 一九四三 「山陰出雲地方諸村落に於ける門名の分布」『地理学評論』一九一〇、四一〜四三
- 一九四三 「村落通婚圏に関する諸問題その二 島根半島中部諸村落の通婚圏の時代的変遷」『地理学評論』一九一一、四八〜六〇
- 関谷 龍子 一九八五 「親族関係の地域的存在形態——非同族型村落の事例」『佛大社会学』一〇、三八〜五一
- 武井 正臣 一九七一 「西南日本型家族における相続と扶養」潮見俊隆・渡辺洋三編『法社会学の現代的課題』岩波書店、二二五〜二五三
- 竹内 常行 一九六八 「島畑景観の分布について」『地理学評論』四一〜四、二一九〜二四〇
- 竹田 且 一九五六 「分住隠居制の問題」『日本民俗学』三一四、一〜二三
- 一九七三 「西南日本における家族慣行」『日本民俗学』九〇、一〜一八
- 田中 宣一 一九七八 「明治初期における大山講の分布」『成城文藝』八三、二二五〜二三七
- 地方史研究協議会 一九八三 「流域の地方史——社会と文化——」『地方史研究』一八三、一〜二二
- 富田祥之亮 一九八四 「焼普請手伝いのあるむら」『変貌する農村——生活・文化と農業経営』（現代のエスプリ）二〇三、一一九〜一三七
- 外山 幹夫 一九七九 「西国における惣領制の特質——大友氏を中心として——」『九州文化史研究所紀要』二四、三〇一〜三三三
- 永井 良和 一九八六 「都市の『匿名性』と逸脱行動——隠蔽と発見の可能性——」『ソシオロジ』三〇一三、七七〜九六
- 中込 睦子 一九八三 「福島県下におけるハオヤジマイヅ慣行——親族成員権の移行と親族ネットワーク——」『民族学研究』（日本民族学会）四八―二、一四六〜一七四
- 中根 千枝 一九六二 「南西諸島の社会組織序論」『民族学研究』（日本民族学協会）二七―一、一〜六
- 中村 正夫 一九六一 「肥後国天草島における漁村の成立と展開——『舸子役』を中心として——」『九州文化史研究所紀要』（創立二十五周年記念論文集）八・九、一四三〜一六一
- 野崎 清孝 一九七三 「奈良盆地における歴史的地域に関する一命題——墓郷集団をめぐって——」『人文地理』二五―一、一〜二四
- 野本 晃史 一九六二 「観光客流動圏の形態からみた観光地類型とその分布」『人文地理』一四―四、五四〜六七
- 橋本 征治 一九七七 「部落共有林の分解と残存部落有林の機能よりみた地域性」『人文地理』二九―一、二六〜五三
- 浜谷 正人 一九六九 「農村社会の空間秩序とその意義——主として小村のばあいを事例として——」『人文地理』二二―二、一九〜四三
- 一九七六 「近代日本農村の地域的変容——東北地方の郷倉制を中心として——」『人文地理』二八―五、一〜三〇
- 福田アジオ 一九六九 「契約講——地域的差異と歴史的品格——」和歌森太郎編『陸前北部の民俗』吉川弘文館、六三〜九三
- 一九七二 「若者組の諸類型と『家』の構造」『茨城県史研究』二四、四七〜五七
- 一九七三 「若者組の諸類型」『社会伝承研究』一、一五〜一八
- 福田 徹 一九六三 「富士山麓南西地域における新田集落——特にその分布と開発過程について——」『人文地理』一五―一六、一七〜三六
- 藤本 利治 一九五九 「琵琶湖西岸の農業集落と農業地域」『人文地理』一一―一、三八〜五一

- 牧野 由朗 一九六七 「漁村共同組合の性格と変容——真珠養殖村の事例——」『社会学評論』一七―四、七二―
- 正岡 寛司 一九六八 「山村社会における同族と親族——山梨県南都留郡足和田村根場部落の一事例——」『社会学評論』一九―二、二二―四一
- 増田 昭子 一九八六 「南関東の半夏生」『民俗学論叢』相模民俗学会 六、一―二七
- 松本 通晴 一九六二 「地主層の存在形態と村落構造——愛媛県東予地方村落の構造的変化の過程——」『社会学評論』二二―二、五五―八五
- 宮本 又次 一九五〇 「九州経済史に於ける特殊構造——對馬経済と九州経済——」『九州文化史研究所紀要』一、一一九―一四三
- 村武精一・郷田洋文・山口昌男ほか 一九五七 「伊豆新島若郷の社会組織——世代階層制村落の研究——」『民族学研究』(日本民族学協会)二二―三、四、四八―八八
- 望月 真 一九八六 「農村と漁村における親族関係の特徴」『歴史手帖』一四―九、三三―四〇
- 山岡 栄市 一九六四 「隠岐島村落の共同体規制」『社会学評論』一四―四、二―二六
- 山口 忠彦 一九八五 「栃木県栗山村川俣のオヤブンコブン」『民俗学評論』(大塚民俗学会)二五、四九―六五
- 山本 登・中川喜代子 一九六〇 「父分家制に関する一考察——和歌山県牟婁郡本宮町(旧四村)渡瀬の場合——」『社会学評論』一〇―一、三七―五六
- 山本 登 一九五〇 「通婚関係よりみた山村共同体の封鎖性と平等性」『社会学評論』一一―三、一二―一五
- 山口弥一郎 一九五七 「日本における名子制度の地理的分布」『地理学評論』三〇―九、一四八
- 山階 芳正 一九五一 「五島の旧切支丹」『民間伝承』一五―四、三六―四一
- 山本正三・田林 明 一九八〇 「北海道における農村空間区分」『人文地理学研究』四、九七―一一一
- 山本正三・北林吉弘・田林 明 一九七六 「北陸地方における農村空間の区分に関する一つの試み」『地理学評論』四九―六、三六一―三七九
- 吉田禎吾・上田 将・丸山孝一 一九六九 「山陰農村の親族組織」『民族学研究』(日本民族学会)三四―一、一―二一
- 渡辺 欣雄 一九七二 「沖繩北部——農村の社会組織と世界観——大宜味村字田港の事例——」『民族学研究』(日本民族学協会)三六―一、八五―一〇八
- 五 生産・生業
- 青木千枝子 一九六三 「水稻生産力の地域性に関する研究」『人文地理』一五―一、四九―六七
- 青沼 勝 一九八七 「十六世紀における堺商人の商圏・文化圏の拡大」『国史学』国史学会 一三三、三二―六一
- 秋道 智弥 一九七九 「明治初期・飛騨地方における生産魚類の分布論的研究」『国立民族学博物館研究報告』四―二、二八五―三三九
- 浅黄谷剛寛 一九六二 「北海道における水稻北限地域の農業」『史学研究』(広島史学研究会)八二、五〇―六三
- 荒居 英次 一九六三 「近世房総における俵物生産と鮑漁業」『九十九里史学』二、二九―四四
- 安藤 正紀 一九七八 「農業変化からみた日本の農業地域区分」『地理学評論』五一―五、三六五―三八三
- 磯貝 勇 一九五九 「交通・運搬」『日本民俗学大系』五 平凡社、三二七―三四八

- 石井 泰義 一九四三 「関東地方に於ける水田裏作度の分布」『地理学評論』一九一五、四九〇五五
- 石塚 尊俊 一九四九 「田植組と田植方式——中国地方の大田植に於ける——」『民間伝承』一三〇一六、七〇一四
- 伊豆川浅吉 一九六七 「庄園漁村の分布と海賊の発生」『漁業経済研究』一五三・四、八四〇一〇三
- 泉 房子 一九七七 「小丸川水系の伝統漁法——付・県内の二・三の釜——」『日本民俗学』一一〇、六四〇八三
- 一九七九 「焼き畑地帯の食生活——西米良の民俗調査から——」『宮崎県総合博物館研究紀要』四、一〇五六
- 伊藤 喜栄 一九五七 「日本における中小織物業の地域的性格——特にその存立形態を中心として——」『人文地理』九一五、一七〇三五
- 伊藤 郷平 一九六四 「日本農業に於ける労働需給地域とその類型」『人文地理』六一五、一〇一九
- 上野 福男 一九四〇 「地理的に観たる信飛国境附近山村の労働の季節的分業」『地理学評論』一六〇八、一六〇三三
- 上原 秀明 一九八五 「近世における八ヶ岳南麓農村の空間構造」『人文地理』三七一六、一〇二八
- 大喜多甫文 一九七八 「わが国の『あま』の分布とその増減に関する一考察」『漁業経済研究』二四一二、六一〇七七
- 大喜多甫文・浦城晋一 一九七五 「『あま』漁業の地理学的基础——外房『あま』漁村の実証的研究——」『漁業経済研究』二二一三・四、六九〇八六
- 大後美保・鈴木雅次 一九五一 「日本における水稲の最大栽培期間の分布について」『地理学評論』二四一〇、一〇二
- 大迫 輝通 一九六二 「熊本県における桑園の分布と競合ならびに共存」『人文地理』一四一三、三五〇五七
- 大島 襄二 一九六六 「沓岐真珠養殖業の地域的性格」『漁業経済研究』一四一三、二一〇三七
- 小笠原義勝 一九四〇 「瀬戸内海の漁村と農村」『地理学評論』一六一六、五六〇五七
- 一九四〇 「瀬戸内海の漁村と農村」『地理学評論』一六一七、一〇一六
- 一九四二 「日本の漁業者の分布」『地理学評論』一八一、一〇二六
- 一九四三 「漁民の分布」『地理学評論』一九一四、一一〇三三
- 一九四三 「漁業者の分布の由来、附日本漁村のなりたち」『地理学評論』一九一五、三三〇四六
- 岡村 治 一九八九 「新潟県における定期市場網の地域的差異——市掛行動の分析を通して——」『人文地理』四一三、二二〇四二
- 小川 直之 一九七七 「神奈川県における摘田の分布」『民具マンスリー』一〇一五、二二〇一七
- 大友 義助 一九八三 「小国川の漁法」『農村文化論集』（農村文化研究所）三、二二〇二八
- 小野 重朗 一九七七 「原始川漁法としてのハジとヒビ」『日本民俗学』一一〇、二四〇三四
- 尾原 信彦 一九三七 「徳川時代尾州平野の生産業と其変遷」『歴史地理』七〇一五、一〇三三
- 織井 文雄 一九六六 「松本市における在来工業の形成——日本の在来工業地域の中における位置——」『信濃』一八一〇、九〇一六
- 尾留川正平 一九五〇 「農業地域形成原理としての集落性格論——秋田縣子吉川流域の例——」『地理学評論』二二一〇、一〇九
- 柿本 典昭 一九七五 「漁村の地域的研究——水産地理学への道標——」『大明堂

- 金崎 肇・渡部久喜 一九五二 『石川県沿岸漁村の地域区分』『地理学評論』二  
五一一、二二〇〜三〇
- 上島 正徳 一九五〇 「飛騨大野郡に於ける焼畑の分布」『地理学評論』二二一  
一〇、一〇〇〜一四
- 川崎 敏 一九四〇 「栃木県に於ける機業の地域区分」『地理学評論』一六一  
五
- 川名 登 一九六〇 「関東に於ける河川運輸機構の成立」『歴史地理』八九一  
四、五四〜六四、九三〜三八
- 甲斐重武・森川 洋 一九八六 「瀬戸内島嶼部の農業とその地域類型」『内海文  
化研究紀要』広島大学文学部内海文化研究室 一四、一  
三〜二九
- 神田三亀男 一九七九 「瀬戸内段々畑の民俗」『日本民俗学』二二六、一〜一七
- 岸本 賓 一九四九 「東四国山地における耕地の高度分布」『地理学評論』二  
二一六・七、一〜五
- 北見 俊夫 一九七三 「日本海海上交通民俗の側面」『日本民俗学』八六、一  
〜四
- 北村 修三 一九八七 「戦後の日本農業の地域構造に関する研究動向」『人文地  
理』人文地理学会 三九一、二五〜四〇
- 一九八七 「わが国における養鶏業の地域的展開」『名古屋大学文学  
部研究論集』(史学三三) 名古屋大学文学部、XCVIII、  
一四九〜一七四
- 木俣美樹男・横山節雄 一九八二 「雑穀のむら(統報)——とくに雑穀の栽培・  
調理の残存分布およびその要因について——」『季刊人  
類学』一三一、一八二〜二〇五
- 木村 博 一九七六 「近世における石工集団——「高遠石工」をめぐって——」  
『日本民俗学』一〇四、四二〜四八
- 胡桃沢勘司 一九七五 「大町・糸魚川街道の興亡とその背景——ポッカの歩い  
た道を求めて——」『日本民俗学』一〇二、七〜一一
- 蔵田 周忠 一九五八 「家づくり」『日本民俗学大系』六 平凡社、六五〜一〇  
〇
- 河野 通博 一九五八 「漁場入会慣行の諸類型」『人文地理』一〇一三、一〜一  
五
- 小島 弘義 一九七七 「相模川水系の川魚」『日本民俗学』一一〇、三五〜四五
- 小林 茂 一九八三 「奄美諸島の伝統的イネ栽培と「踏耕」」『人類科学』三五、  
六九〜一〇二
- 久保山千里 一九六三 「嬉野における茶業の発展過程」『九州文化史研究所紀  
要』一〇、四一〜七〇
- 楠谷 圭司 一九八九 「時間地理学の考え方と応用——生業活動をどう解釈す  
るか」『地理』三四一、二、三六〜四三
- 斎藤 毅 一九七八 「奄美諸島および吐噶喇列島における伝統的製塩形態の  
地理学的研究」『人類科学』三〇、一四一〜一七〇
- 坂本 英夫 一九六八 「柑橘産地内部の地域構造に関する試論」『人文地理』二  
〇一三、一〜二八
- 一九八二 「わが国における大農家の地域的分布」『地理学評論』五  
五一、三七〜四八
- 佐々木高明 一九六五 「焼畑農業の研究とその課題——A焼畑の比較地理学V  
への一序論——」『人文地理』一七一六、六六〜八六
- 一九六八 「わが国焼畑経営方式の地域的類型上・下」『史林』五一  
一四・五、九一〜一三八、七八〜二二九
- 一九七二 『日本の焼畑』古今書院
- 佐々木高明・応地利明・坪井洋文・渡部忠世 一九八三 「学際討論・赤米の文  
化史」『季刊人類学』一四一四、三〜六六
- 島田 正彦 一九六四 「漁船動力化の進展よりみた漁業の地域性について」『人  
文地理』一六一五、三四〜四七
- 白坂 蕃 一九八九 「青潮文化と牧畑」『地理』三四一五、四三〜五一
- 新宅 勇 一九五七 「長門北浦漁村の生態構造」『人文地理』九一二、三四〜



- 杉山 奎 一九五〇 「主要現金収入より見たる内地農家の地理的分布」『地理学評論』二二―一〇、一五―二二
- 鈴木 敏紀 一九八九 「上越地域の経済的特質」『上越教育大学研究紀要』八一―二、一〇九―一二五
- 高桑 守史 一九八四 『農民漁業』と『海民漁業』——伝統的漁村の類型——『歴史公論』一〇―五、四八―五四
- 高野 岳彦 一九八五 「漁船員の地域集団性からみた漁業労働市場の地域的開放・閉鎖性の分析——三陸地方の主要漁港を例として——」『地理学評論』二二―五八、八〇―九六
- 竹井恵美子・小林央佳・阪本寧男 一九八一 「紀伊山地における雑穀の栽培と利用ならびにアワの特性」『季刊人類学』一二―四、一五六―一九七
- 竹内 常行 一九三九 「溜池の分布に就いて（北海道以外の内地）」『地理学評論』一五―二、七七―七九
- 一九三九 「溜池の分布に就いて〔本州、四国、九州〕」一・二・三『地理学評論』一五―四・五・六、四七―六四、一―二四、四二―五五
- 竹内 利美 一九五八 「職業集団——『日本民俗学大系』三 平凡社、三二―三三四
- 武田 淳 一九九〇 「漁撈の変容——社会・経済的推移と生態的側面」『人類科学』四二、三―四
- 田中 豊治 一九七二 「近世末期における長崎俵物の生産、流通の地域的特色」『漁業経済史研究』一九―三、一―三四
- 田辺 悟 一九七五 「蠻人の分布の民俗学的考察」『日本民俗学』九八、五五―六一
- 田林 明 一九八四 「北陸地方における稲作の地域差」『人文地理学研究』八、二三五―二六二
- 千葉 徳爾 一九六〇 「日本における灌漑システムの地域差」『筑波大学人文地理学研究』筑波大学地球科学系 Ⅹ、一一五―一三七
- 一九七四 「日本における山地の農業的利用と水稲栽培」『人類科学』二二、一〇二―一一〇
- 一九七四 「近代日本の常民的労働組織とその地域的展開——民俗面からのアンケート調査を通じて——」『愛知大学文学部文学論叢』五二、一―三一
- 坪井 洋文 一九八〇 「日本人の農耕観——比較民俗論への序章——」『国学院雑誌』八一―二、二六七―二八三
- 内藤 正中 一九八六 「過疎地域における地域産業の展開過程 (I)」『山陰地域研究』島根大学山陰地域研究総合センター 二、一―一八
- 中元美智子 一九六七 「佐賀藩における陶磁器専売」『九州史学』四一、一―三
- 中部よし子 一九五五 「近世竹原における製鹽業の発展」『史学研究』六〇、六三―七二
- 長沢 利明 一九八九 「日記資料から見た焼畑農民の生活史(下)——山梨県南巨摩郡早川町奈良田の事例——」『法政大学教養部紀要』七一、六五―一〇六
- 中島 峰広 一九八九 「第二次世界大戦前における畑地灌漑の地理学的研究」『學術研究』三八、三五―五四
- 中村ひろ子 一九八〇 「販女——行商の発展——」『講座、日本の民俗』五 有精堂、一六九―一九一
- 仁昌寺正一・松原豊彦・井上博夫 一九八九 「山村過疎地域における経済・産業・生活に関する実態調査——宮城県七ヶ宿町の事例——(その一)」『東北学院大学東北産業経済研究所紀要』八、五三―一二〇
- 西村 嘉助 一九五三 「沼田川の水運と竹原の背後地関係」『史学研究』五〇、

- 八三〇～八三九
- 西村嘉助・牧野洋一 一九五九 「稲架の分布とその意義」『人文地理』一一一四、一～一四
- 野口喜久雄 一九六二 「近世中期北九州海上輸送権をめぐる争論について」『九州史学』二〇、一～一〇
- 一九六三 「江戸中期北九州の農業形態」『九州史学』二二・二三、一～二二
- 一九六七 「製蠶業経営における収支構造と経営の基盤」『九州史学』三七・三八・三九、五九～七八
- 野口 武徳 一九六二 「宮古漁村社会の概況」『民族学研究』(日本民族学協会)二七一、一九～二五
- 橋本 鉄男 一九六二 「君が畑と東北の氏子狩——君が畑氏子狩帳の実証的研究・東北篇第一部」上・下 『日本民俗学会報』二五・二六、一七～三六、一八～三四
- 早川孝太郎 一九三七 「農事慣習に於ける個人労力の社会性——ユヒの問題に關連して——」『民族学研究』三一二、二九～八八
- 古田 悦造 一九八五 「近世関東における関西漁民出漁地域の歴史地理学的研究」『新地理』三三一
- 一九八五 「近世相模国浦賀における干鰯問屋の集荷圏と出荷圏」『地理学評論』一〇一五八、六六三～六七三
- 堀内 義隆 一九五五 「灌漑構造からみたる奈良盆地の地域性」『地理学評論』二八七、三二七～三二八
- 一九七〇 「奈良盆地における水利集団の分布と水利秩序について」『地理学評論』四三三三、一七一～一八二
- 増田 昭子 一九九〇 『粟と稗の食文化』三弥井書店
- 松井 勇 一九三九 「日本内地に於ける耕地度の分布状態、其の叙述」『地理学評論』一五二二、六〇～七三
- 一九四〇 「日本内地に於ける耕地度の分布状態、其の叙述二」『地理学評論』一六一、一～一四
- 一九四三 「農業経営組織による郡の分類——昭和二三年農家調査の分布解析の一——」『地理学評論』一九、一～一六
- 一九四三 「農業経営組織による我が内地の地域区分(1)——昭和三年農家調査の分布解析の二——」一・二・三 『地理学評論』一九一六・七・八、一～二二、三二～五〇、二一～三九
- 一九四八 「農業経営組織による日本の地域区分(II)——大地域の設定——」『地理学評論』二一九・一〇・一一、一～七
- 松井勇・堀江元 一九五〇 「那須扇状地農業地理——水田地域と畑地域の設定——」『地理学評論』二二二、一～六
- 松下 志朗 一九六六 「薩摩に於ける船運賃について——御用船を中心に——」『九州史学』三五、三一～三九
- 一九六六 「薩摩に於ける船運賃について——御用船を中心に——」『九州史学』三六、一九～二八
- 松山 利夫 一九七七 「野生堅果類、とくにトキノミとドンダグリのアタ抜き技術とその分布」『国立民族学博物館研究報告』二二三、四九八～五〇四
- 宮坂 正治 一九六九 「松本の御売商圏——グラヴィティ・モデルによって——」『信濃』二二一〇、一～一九
- 一九八一 「長野県農業の地域構造——グラヴィティ・モデル(Gravity model)を援用して——」『信濃』三三三二、一～三六～一五二
- 村上節太郎 一九三七 「本邦に於ける米作の地域性」『地理学評論』一三三六、七一～七四
- 森栗 茂一 一九八四 「伝播技術独占の結果として伝承——沖縄の奥間鍛冶屋

- 伝承と禊祭——『日本民俗学』一五四、九一〜一六五  
 一九八四 「南西諸島鍛冶職の伝播と定着」『季刊人類学』一五—三、  
 七—一三三  
 安枝 俊雄 一九五九 「漁業地域区分についての一試論」『漁業経済研究』七—  
 四、一二三—一三三  
 安田 初男 一九四〇 「北陸地方の稲架樹分布」『地理学評論』一六一—〇、一  
 一—一六  
 一九五六 「日本における牧野景観の地域的特性」『地理学評論』二  
 九—二、九〇—一〇一  
 安原 茂・吉沢四郎 一九六八 「利根川流域農山村の農家経営と社会構造」『人  
 類科学』二〇、一七七—二〇五  
 山口 貞夫 一九三七 「日本に於ける焼畑分布の地理的意義」『地理学評論』一  
 三—四、九二—九四  
 一九三八 「焼畑の地理的分布其他」『地理学評論』一四—一、一—  
 二—三  
 山口弥一郎 一九四〇 「東北地方の稗の分布」『地理学評論』一六一—、三八—  
 五七  
 山下 脩二 一九八九 「イカ漁にみる青潮文化」『地理』三四—五、三四—四二  
 山本 正三 一九八六 「わが国畜産業の地域的動向——一九六〇年—一九八〇  
 年——」『筑波大学人文地理学研究』筑波大学地球科学  
 系 X、一七—四〇  
 山本 弘文 一九七二 「神奈川県経済の発展と地域的特色——明治—大正初期  
 ——」『神奈川県史研究』一八、一—三七  
 湯浅 照弘 一九七七 「岡山県の内水面漁撈習俗」『日本民俗学』二一〇、四六  
 一—六三  
 横田 雅博 一九八五 「鏡川・神奈川流域における自給的茶業について」『群馬  
 歴史民俗』七、三九—五三  
 与那国 暹 一九七六 「奄美と沖縄・農村の社会的特質の相違について——近  
 世末における土地制度と農民層の分化を中心に——」  
 『人類科学』二八、五九—七四  
 脇田 武光 一九八八 「境市の産業と土地経済から見た地域研究」『東洋研究』  
 八九、二七—七三
- 六 物質文化
- アチック・ミウゼアム編 一九三五 「所謂足半(あしなか)に就いて」—『民  
 族学研究』一—四、一—六—一七四  
 一九三六 「所謂足半(あしなか)に就いて」二 『民族学研究』二  
 一—、一一五—二四五  
 天野 武 一九七四 「産習俗の二側面——加賀・能登の育児民具の場合  
 ——」『日本民俗学』九三、五七—七六  
 磯貝 勇 一九五八 「雨着と履物」『日本民俗学大系』六、平凡社、三七—  
 三九〇  
 市原 輝士 一九五二 「讃岐地方における民家研究について」『民間伝承』一六  
 一—二、二二—二五  
 一九六六 「若狭民家の系譜」和歌森太郎編『若狭の民俗』吉川弘  
 文館、一三七—一五一  
 一九六七 「四国地方の民家の系譜」『地方史研究』八八、一六—一  
 九  
 一九六九 「民家の地域性」和歌森太郎編『陸前北部の民俗』吉川  
 弘文館、一九—二〇五  
 一九七二 「讃岐の民家の系譜と地域性」『日本民俗学』七五、二四  
 一—三〇  
 今田節子・岡井球美子 一九八三 「瀬戸内沿岸地帯の食伝承(六)——牛窓町にみ  
 られる正月雑煮の慣習」『岡山民俗』(岡山民俗柳田賞受  
 賞記念特集)二二六—二四五

- 一九八六 「食の伝承——正月雑煮の慣習からみた岡山県食習俗の特徴と地域性——」『日本民俗学』一六三、一〇二二
- 上江州 均 一九八一 「沖繩の信仰・儀礼・行事の民具」『民俗学研究所紀要』(成城大学民俗学研究所)五、二七〜一〇〇
- 遠藤 武 一九五七 「服飾史よりみた農民衣服」『地方史研究』三二、一〜七
- 大島 曉雄 一九八四 「民俗技術における系譜意識とその背景——関東の草屋根葺きを中心として——」『国立歴史民俗博物館研究報告』四、九七〜一三三
- 太田 道子 一九七九 「稗食の名残り」『日本民俗学』二二三、五九〜六七
- 小川 徹 一九六三 「民家型式の研究をめぐる二、三の問題——小野重朗氏の近著によせて——」『人文地理』一五一四、九九〜一〇二
- 一九六八 「民家型式の系譜試論」『日本民俗学』五七、一六〜三七  
 (『日本人の原点——文化・社会・地域差——』二 至文堂、九三〜一二七)
- 小野 重朗 一九六五 「熊本県南部のカギエの二類型」『民俗建築』五二、一〜四
- 小野芳次郎 一九七七 「山形県の民家——その風土と暮し——」高陽堂
- 蒲生 正男 一九六四 「産屋・他屋の文化とその主体的条件」『石田英一郎教授還暦記念論文集』角川書店 四五〜五六
- 角山 幸洋 一九八五 「綿織具の分布」『近畿民具』九、四一〜四九
- 菊地 勇 一九四三 「岩手の食物の郷土食」『民間伝承』八、一一、三三〜三五
- 北野 隆 一九七二 「熊本県民家の分布とその特徴について」『熊本みんぞく』三、五〜七
- 木村ムツ子 一九七四 「郷土料理の地理的分布」『地理学評論』四七、一六、三九四〜四〇一
- 蔵田 周忠 一九五四 「会津盆地の北と南——岩代(福島県)の広間型の例——」
- 河野 慶道 一九三五 「アイヌとトーテム的遺風——特にレブシカムイシロンとキンカムイシロンに就て——」『民族学研究』二、一、四五〜五三
- 小林 梅次 一九六九 「東北の草屋根ふき」『日本民俗学会報』六一、五二〜五九
- 九 「東北の草屋根ふき」『日本民俗学』八五、四〇〜四四
- 一九七三 「北陸の草屋根ふき」『日本民俗学』九七、四〇〜四四
- 一九七五 「四国の草屋根ふき」『日本民俗学』一二三、四八〜五八
- 一九七九 「関西の草屋根ふき」『日本民俗学』一二三、四八〜五八
- 一九六七 「日本の住居(五)——その地域的特徴の素——」『地理』二二、七八〜八二
- 一九六七 「日本農家の間取りとその分布および系譜」『日本女子大学紀要(文学部)』一六、一〜五五
- 篠田 統 一九七八 「すしの種類と分布」『日本人の原点——文化・社会・地域差——』二 至文堂、一二八〜一三九
- 柴田 武 一九六九 「モンペの分布」『言語地理学の方法』筑摩書房
- 杉浦 直 一九七七 「東北地方における農家建物構成の地域的差異」『地理学評論』五〇、二、八八〜一〇一
- 一九七七 「東北地方における農家建物構成方式の成立——岩手県中部、会津地方及び仙台平野の事例から——」『人文地理』二九、五、一〜三一
- 一九八五 「東北地方における農村家屋母屋間取り、形態の地域的差異と特色」二 『アルテスリベラレス』三六(岩手大学人文社会科学部)
- 杉本 尚次 一九五五 「近畿の屋根型」『日本民俗学』二、三、六二〜七三
- 一九五七 「近畿の間取り型——分布を中心として——」『日本民俗学』四、一、五六〜六四
- 一九五八 「西日本における民家の地理学的考察——屋根を中心と

- して——』『人文地理』九一六、四一—五六  
 一九六一 「西日本における民家間取型の地域性」『地理学評論』三  
 四一五、二一—三六  
 一九六九 『日本民家の研究 その地理学的考察——』ミネルヴァ書  
 房  
 一九七七 「九州地方の民家研究展望」『国立民族学博物館研究報  
 告』二一—、一四一—一七一  
 一九七七 『地域と民家』明玄書房  
 一九七九 「九州山地の民家——椎葉・米良地域を中心に——」『国  
 立民族学博物館研究報告』四一—、七九—一一六  
 須藤 賢 一九五五 「中門造民家の形態発生論的考察——越後を中心地域と  
 して——」『人文地理』七—四、一—一四  
 竹内芳太郎 一九五八 「屋敷・間取り」『日本民俗学大系』六 平凡社、二二—  
 六四  
 月館 敏栄 一九八七 「東北地方民家における冬期気候に対する適応形態の研  
 究——仮設の雪対策について——」『民俗建築』日本民  
 俗建築学会 九二、四—一五  
 一九八九 「青森県黒石地方の民家について——特徴と変容——」  
 『民俗建築』九六、一〇—二三  
 辻井 善弥 一九九〇 「三浦半島の牛馬の分布と犁耕」『民具マンスリー』二三  
 一—、一—二二  
 西 和夫 一九八六 「一間の長さの変遷とその地域分布——日本基準尺地図  
 と基準尺周囲説——」『列島の文化史』三 日本エディ  
 タースクール出版部、一一五—一四八  
 額田 巖 一九五六 「結びに関する研究」『民族学研究』一九—三、四、一—  
 三三  
 日本建築学会 一九八九 『図説集落——その空間と計画』都市文化社  
 橋本 鉄男 一九七七 「椀注連考」『日本民俗学』一一—、一—一〇  
 林 魁一 一九三六 「飛騨国朝日高根旅行記」『民族学研究』二—四、一—四八  
 古島 敏雄 一九四三 「近世農業に於ける犁の形態、犁耕の普及」『歴史地理』  
 八一—、一一—四三  
 前田佐智子 一九八七 「飴の資料拾遺」『加能民俗研究』加能民俗の会 一五、  
 七七—八九  
 向山 雅重 一九五五 「諏訪と伊那の民家」『伊那』一一—  
 一九八三 「伊那谷の南と北」『長野県民俗の会会報』六、九—一六  
 矢沢 大二 一九三六 「東京近郊に於ける防風林の分布に関する研究」一—二  
 『地理学評論』一一—一・三、四七—六六、五六—七六  
 一九五〇 「景観に現われた気候的特性——わが国に於ける防風林  
 の分布について——」『地理学評論』二—三—、一—九  
 一九五一 「気候景観としての佐久高原の民家の瓦屋根に繁茂する  
 地衣類の分布」『地理学評論』二—四—六、三〇—三六  
 矢島せい子 一九七八 「ゆびぬき考——皿つきゆびぬきの調査から——」『日本  
 民俗学』一一—五、二〇—三四  
 柳田 国男 一九四四 『火の昔』実業之日本社  
 『定本柳田国男集』二— 一九七〇 筑摩書房、一五一  
 山口 賢俊 一九七三 「新潟県の背負い運搬具について」『日本民俗学』八七、  
 一—四二  
 渡辺 定夫 一九七五 「松本—糸魚川間の正月魚リブリとサケの問題——」上・  
 下 『民間伝承』三九—二・三、一〇—四—一二、一七  
 二—一七七  
 七 信仰と儀礼  
 新井 恒易 一九四九 「東海地方の田楽の分布と形態」『民間伝承』一—三—一二、

- 三〇〇～三六六
- 有末 賢 一九八三 「都市祭礼の重層的構造——佃・月島の祭祀組織の事例研究——」『社会学評論』三三―四、三七―六二
- 安藤慶一郎 一九六〇 「同族結合の分解と屋敷神祭祀——三州名倉の場合——」『社会学評論』一〇―一、五七―七六
- 磯貝 勇 一九五六 「両墓制のモデル・ゾーン」『民間伝承』二〇八、二〇―二、二四―二五
- 飯島 吉晴 一九八三 「オタナサマ信仰の周辺——東北の民間信仰におけるその位置づけ——」『農村文化論集』三、三九―七四
- 飯田 孝 一九八三 「曆法の変化と年中行事——神奈川県妻田村の事例を中心に——」『民俗学論叢』(相模民俗学会)四、五八―七三
- 飯田真理子・千葉徳爾 一九七六 「飛騨川下流域における山の神の祭祀」『日本民俗学』一〇三、三五―五六
- 池上廣正・柳川啓一・池田昭・宮家 準・宮田 登・蘭田 稔・藤井正雄 一九六三 「諸宗教の全国分布——統計資料による——」『人類科学』一五、四一―七九
- 井阪 康二 一九八五 「振り米の意味」『日本民俗学』一五七・一五八、一三―二四
- 石川純一郎 一九八六 「焼畑農耕の生産儀礼——土佐旧横山村の場合——」『日本民俗学』(日本民俗学会)一六五、二四―三〇
- 一九九〇 「地域社会における民間念仏と地藏信仰」『静岡県史研究』六、九一―一〇〇
- 伊藤 幹治 一九七四 『稲作儀礼の研究』而立書房
- 伊藤 曙覧 一九七六 「越中の流れ灌頂」『日本民俗学』一〇四、三五―四二
- 三〇〇～三六六
- 伊藤 唯真 一九八〇 「卯月八日の民俗と仏教——西日本の事例から——」『日本民俗学』一二八、一四―二二
- 井上 頼寿 一九三九 「京都の水口祭」『歴史地理』七三―四、六九―七三
- 井之口章次 一九五五 「正月のヨト節供」『日本民俗学』二一三、七三―七七
- 今瀬 文也 一九七二 「茨城県における盆行事」『仏教と民俗』九、五一―六〇
- 一九七三 「茨城県における正月の仏教行事」『仏教と民俗』一〇、一〇―二〇
- 今村 充夫 一九七四 「石川県の骨掛け習俗の分布と意義」『日本民俗学』九四、四七―五三
- 岩崎 敏夫 一九五〇 「氏神まつり——相馬磐城地方の氏と氏神——」『民俗学研究』(日本民俗学会編)一、一五三―一七八
- 岩鼻 通明 一九八三 「出羽三山をめぐる山岳宗教集落」『地理学評論』五六―八、五三五―五五二
- 牛島 盛光 一九六二 「須恵村のぬしどりと講組——変容過程のなかで果す社会的役割——」『社会学評論』一三―三、六四―一〇一
- 打江 寿子 一九七六 「コト八日」『日本民俗学』一〇七、二一―二六
- 内田 賢作 一九八一 「埼玉のカマド荒神信仰について」『日本民俗学』一三五、一八―三八
- 一九八五 「県境地域の民俗——年中行事を中心として——」『長野県民俗の会会報』八、一―一七
- 内田 秀雄 一九五九 「真宗の発展——仏教地理的研究——」『人文地理』一〇一五・六、一四―二八
- 内田るり子 一九七六 「奄美民謡の音楽的性格を通してみた周辺地域との関連性」『人類科学』二八、九三―一二三
- 海老澤有道 一九三七 「上州と切支丹」『歴史地理』七〇―四、三三―四二
- 江馬三枝子 一九五八 「白川村とその周辺の婚姻」『日本民俗学会報』四、二三―二六
- 大島 建彦 一九五六 「庚申と二十三夜」『日本民俗学』三一三、五一―六〇

- 大津 武久 一九七二 「常陸鹿島地方における頭人の祭り」『国学院大学日本文学研究所紀要』二八、三〇〇～三〇六
- 大藤 時彦 一九八五 「シャマニズムの諸問題」『群馬歴史民俗』六、一～八
- 大友 義助 一九七三 「山形県北部地方のサンゲサンゲ行事について」『日本民俗学』八八、一一～二七
- 沖山 茂 一九七四 「羽州葉山信仰の考察」『日本民俗学』九三、二八～五〇
- 大間知篤三 一九五〇 「房総の漂着神」『日本民俗学』一〇二、四七～五二
- 大本 憲夫 一九八二 「八丈島の女性——日本周辺島嶼の婚姻——」『民族学研究』（日本民族学協会）一五一、一一～二二
- 小川 直之 一九八八 「沖繩宮古群島の祭祀体系」『民俗学研究所紀要』（成城大学民俗学研究所）六、二〇九～二五二
- 奥野 広隆 一九七六 「稲作儀礼の構成と地域性（上）」『龍ヶ崎市史研究』二、二六～三六
- 一九九〇 「稲作儀礼の構成と地域性（下）」『龍ヶ崎市史研究』四、二〇～三八
- 一九八二 「山の神信仰の問題点——熊本県の山の神信仰を中心とした——」『日本民俗学』一〇五、一九～四〇
- 一九八二 「熊本県南部の歟入れ」『日本民俗学』一三九、五〇～六六
- 一九八二 「熊本県の綱引儀礼——地域性の予備的考察——」『季刊人類学』一三三～四、一六四～二二三
- 一九八四 「七夕の綱張り行事——熊本県南部の特殊な分布——」『日本民俗学』一五一、三六～五三
- 小野 重朗 一九六二 「竜神の去来」『日本民俗学会報』二六、一〇～一七
- 一九六六 「コガライドン（小鳥神社）」『民間伝承』三〇～三三、一二七～一三二
- 一九六六 「牛神（モモドン）」『民間伝承』三〇～四、一九三～一九八
- 一九六七 「大將軍神社（デシヨグンサー）」『民間伝承』三二～一、一一～一七
- 一九六七 「サッドン（庚申様）」『民間伝承』三二～二、八九～九四
- 一九六七 「ガランドン（伽藍様）」『民間伝承』三二～三、一四五～一五〇
- 一九六七 「タノカンサア（田の神様）」『民間伝承』三二～四、二一五～二二〇
- 一九六八 「トシノカン（年神）」『民間伝承』三二～一、三九～四四
- 一九六八 「モイドン（森殿）」『民間伝承』三二～二、一〇五～一一〇
- 一九六八 「ヤブサドン（矢房神社）」『民間伝承』三二～三、一六五～一七〇
- 一九六八 「コノミヤサア（蚕神様）」『民間伝承』三二～四、二二一～二三六
- 一九六九 「セクノカミ（大工神）」『民間伝承』三三～一、四一～四五
- 一九六九 「ツイドン（鎮守神）」『民間伝承』三三～二、九七～一〇二
- 一九六九 「マッガン（牧神）」『民間伝承』三三～三、一七七～一八二
- 一九六九 「地神・荒神」『民間伝承』三三～四、二二一～二三六
- 一九七〇 「スジンサア（水神様）」『民間伝承』三四～一、三五～四〇
- 一九七一 「オツッドン（月神様）」『民間伝承』三五～二、一一一～一二六

- 一九七一 「ウツガンサア(内神様)」「民間伝承」三五―三、一六  
一―一六六
- 一九七二 「ヒノカンサア(火の神様)」「民間伝承」三六―二、九  
五―一〇〇
- 一九七二 「ドンドと鬼火の接触——九州民俗地図(一)——」「岡山民  
俗」(百号刊行記念特集)、二二―三三四
- 一九七五 「大工神のおとずれ」「日本民俗学」一〇一、二六―四〇
- 一九七六 「霜月収穫祭小論——大根・芋・稲のかかわり——」「日  
本民俗学」一〇七、一―一四
- 一九七七 『神々の原郷——南島の基層文化——』法政大学出版局
- 一九八〇 「夏正月と大隅の民俗」「日本民俗学」一三〇、二八―三  
九
- 一九八一 「山の神の地域性」「日本民俗学」一三三、一―八
- 一九八二 「産育儀礼にみる試練と命名」「日本民俗学」一四三、一  
―一三
- 一九八二 「奄美の神山」「隼人文化」一一、二四
- 一九八三 「草被り神と地域性」「隼人文化」一二、三二―四七
- 一九六七 「上越地方の庚申信仰(一)」「頸城文化」二五、三九―四三
- 一九七三 「福島県における民俗芸能の分布と系譜」一・二『東北  
民俗』七・八
- 笠松 雅弘 一九八四 「神社整理」政策と福井県における展開」『福井県史研  
究』創刊号、八九―一〇六
- 金田 久璋 一九八〇 「同族神の試論的考察——若狭におけるダイシヨコ・地  
荒神・杜神をめぐる——」「民俗学論叢」(相模民俗学  
会)二、九―三四
- 亀山 慶一 一九八三 「漁村における稲荷信仰」直江廣治『稲荷信仰』雄山閣、  
二二七―二三三
- 月光 善弘 一九七四 「東北地方における彼岸行事について」『仏教と民俗』一
- 一九、一〇―一四
- 門屋 光昭 一九八九 『隠し念仏』東京堂出版
- 香月 靖晴 一九八七 「福岡県田川郡の田植え祭り——その対照的な二例から  
——」「民俗芸能研究」民俗芸能学会 六、三二―三八
- 上井 久義 一九七八 「芋の祭り」「講座・日本の民俗」六 有精堂、二〇〇―  
二二二
- 蒲生 正男 一九六四 「産屋・他屋の文化とその主体的条件」『石田英一郎教授  
還暦記念論文集』角川書店、四五―五六
- 一九六七 「日本の婚姻儀礼——伝統的社会的な女性像に関する一考  
察——」「明治大学社会科学研究所紀要」五、二三―四  
〇
- 神野 善治 一九七八 「人形送り」『講座・日本の民俗』六 有精堂、九四―  
一二
- 一九八四 「藁人形のフォークロア」『列島の文化史』一 日本エデ  
ィタースクール出版部、一五六―一八五
- 川口 仁己 一九六七 「伊賀の『かぎひき』資料」『近畿民俗』四三、一―一四
- 川崎 晃稔 一九八四 「南九州のエビス神」『日本民俗学』一五一、五四―七一
- 喜田 貞吉 一九三一 「奥羽地方のシシ踊と鹿供養」『歴史地理』五八―四、五  
九―六四
- 櫛田 良洪 一九五八 「千葉県松戸地方に於ける庚申信仰と仏教」『仏教と民  
俗』三、一七―三一
- 工藤 久夫 一九八三 「新宗教受容における那覇と北部農村の比較」『沖縄民俗  
研究』四、三二―四〇
- 久野 俊彦 一九八五 「日光・赤城山麓の神戦伝承」『群馬歴史民俗』六、五一  
―五九
- 窪 徳忠 一九五八 「広島県下の庚申信仰」『芸備地方史研究』二八、一六―  
二三
- 一九五九 「中国の信仰の影響と民俗——庚申信仰について——」



- 久保寺逸彦 一九五六 「北海道アイヌの葬制——沙流アイヌを中心として——」『民族学研究』（日本民族学協会）二〇一・二、一〇一〜三〇一
- 倉石 忠彦 一九七一 「三九郎考——長野県北安曇郡・南安曇郡・東筑摩郡地方の道祖神祭り——」『信濃』二二一・八、一〇一〜一〇八
- 倉田 正邦 一九六四 「民俗芸能の地域差とその基盤——三重県下におけるカヌ踊の伝承について——」『日本民俗学会報』三三、三〇〜四六
- 桑野 孚美 一九六〇 「杖突峠西麓地域のデイリソメ」『信濃』一二一・五、四九〜五四
- 国分 直一 一九六三 「日本及びわが南島における葬制上の諸問題」『民族学研究』（日本民族学協会）二七二・二、一〇〜二二
- 小島 櫻禮 一九七五 「サンバイ信仰の問題」『日本民俗学』九八、一五〜二〇
- 小島 美子 一九七八 「奄美音楽の諸要素——奄美の音楽文化圏をめぐって——」『人類科学』三〇、一七〜四四
- 小島美子・小柴はるみ・半谷宣子 一九六九 「利根川流域における三匹シン舞の音楽的系譜——楽器の分布を中心に——」『人類科学』二二、一八九〜二二
- 櫻井徳太郎 一九五二 「蓮如忌習俗の意味——文化接触の民俗学的課題について——」『民間伝承』二六一一、二〜九
- 一九七九 「巫俗の地域性」『講座・日本の民俗宗教』四 弘文堂、三九〜五五
- 桜井 満・並木宏衛編 一九八九 『飛鳥の祭りと伝承』 桜楓社
- 桜井 満・岩下 均 一九九〇 『吉野の祭りと伝承』 桜楓社
- 佐々木哲哉 一九八五 「筑前地方の荒神と荒神祭り」『福岡市立歴史資料館研究報告』九、一〜二〇
- 佐々木 勝 一九八〇 「杜神信仰の構造——小祠信仰と農耕儀礼の接点——」『日本民俗学』一二八、六二〜六九
- 佐藤 紀子 一九七九 「関東地方の稲荷信仰と屋敷神」『日本民俗学』一二〇、五八〜六五
- 佐藤 米司 一九六六 「両墓制の問題」和歌森太郎編『若狭の民俗』吉川弘文館、一六七〜一八〇
- 一九六九 「伯耆大山山麓の両墓制」『日本民俗学会報』六四、五三〜六五
- 一九六九 「両墓制の問題点について」肥後先生古稀記念論文刊行会編『日本民俗社会史研究』弘文堂、一一五〜一六四
- 佐野 賢治 一九八九 「大黒天信仰と地域性——米沢地方を中心として——」『仏教歳時記十一月籠り』第一法規、一一〜二〇
- 下野 敏見 一九六二 「種子島民俗芸能分布表」『種子島民俗』一四
- 一九七三 「南日本の来訪神」『日本民俗学』一一五、八〜一九
- 一九七六 「奄美大島の民俗行事・上——四月〜七月——」『日本民俗学』一〇三、一〜一九
- 一九七六 「奄美大島の民俗行事・下」『日本民俗学』一〇四、四九〜七一
- 一九七八 「おとずれ神」『講座・日本の民俗』六 有精堂、一七三〜一九九
- 一九七九 「トカラ列島の修験道文化——修験道の南下とその受容——」『隼人文化』（隼人文化研究会）六、七〜二八
- 一九八三 「建築儀礼の特色と問題点」『日本民俗学』一五〇、一〜二三
- 一九八五 「ヤマト・琉球比較の視座から」『日本民俗学』一五七・

- 一五八、二四〇二八
- 白石 昭臣 一九八四 「西中国山地の麦作儀礼伝承」『口承文芸研究』(日本口承文芸学会) 七、二二〇二八
- 杉浦佐智子 一九八六 「産における灰の力」『京都民俗』四、一七〇三
- 杉浦 芳夫 一九七八 「地域体系との関連でみた江戸明和期の御蔭参りの空間的拡散」『地理学評論』五一―八、六二二―六四二
- 鈴木栄太郎 一九三五 「屋敷神考」『民族学研究』一一二、七二〇八七
- 鈴木 通大 一九七七 「最後の稲束」儀礼について『日本民俗学』一〇九、二九〇三七
- 鈴木 正崇 一九八六 「弓神楽と上公祭文——備後の荒神祭祀を中心として——」『民俗芸能研究』(民俗芸能学会) 三、七〇二九
- 鈴木 宗憲 一九七〇 「能登における真宗の講——とくに御崇敬をめぐる——」『社会学評論』二二―一、六三〇七七
- 住谷一彦・クラクナー・ヨーゼフ 一九七七 「民俗文化の類型 pattern of folk-culture ——奄美・ノロ祭祀と本土・宮座との比較——」『南西諸島の神観念』未來社、二九四〇三一
- クライナー・ヨーゼフ 一九六二 「ノロ祭祀集団における神役の継承について——奄美加計呂麻島の場合——」『民族学研究』(日本民族学協会) 二七―一、四八〇五三
- 清雲 俊元 一九八二 「盆地——その歴史と地域性——甲州の地域性と宗教——」『地方史研究』一〇八〇一一
- 瀬川 清子 一九四二 「諸国の忌籠——(かりやのこと)——」『民間伝承』八四、二三〇二七
- 一九五七 「アイヌの婚姻覚え書」『民族学研究』(日本民族学協会) 二二―三、四六〇五六
- 高木 啓夫 一九八五 「四国西部の神楽について——特に鎮繩神楽について——」『日本民俗学』一六一、一〇一四
- 高橋文太郎 一九三七 「樹木信仰の事例について——武蔵野地方を中心とした——」『民族学研究』三一―一、一五三〇一七〇
- 山口 光一 一九七三 「大神楽の分布と形態——信州上田盆地における伝承例——」『信濃』二五―八、四三〇五五
- 田地 春江 一九八〇 「備後三原地方の妙見信仰」『日本民俗学』一三〇、六一〇七九
- 田中 正明 一九七三 「東京都松原村南松原の両墓制」『日本民俗学』八六、四〇〇五五
- 田中 宣一 一九六二 「インノコト」『日本民俗学会報』二三、一一〇一五
- 田村 貞雄 一九九〇 「東日本の秋葉信仰——全国各地の秋葉信仰(一)——」『地方史静岡』一八、一〇四〇
- 辻 政宏・中田太造・保仙純剛 一九五七 「『子墓』採集資料」『日本民俗学』四―三、九二〇九七
- 辻村 純代 一九八三 「東中国地方における箱式石棺の同棺複数埋葬——その地域性と社会的意義について——」『季刊人類学』一四二、五二〇八三
- 郷田 洋文 一九五五 「『竈神考』『日本民俗学』二―四、一九〇三六
- 一九五六 「家の神の重層性」『日本民俗学』三―三、三三〇四五
- 一九五六 「家の神去来信仰」『日本民俗学』四―四、一七〇五一
- 一九五九 「年中行事の地域性と社会性」『日本民俗学大系』七 平凡社、一六七〇二三八
- 一九六四 「二重墓制の分布に関する問題」『人類科学』一六、六二〇七
- 徳川真理子 一九七七 「宮座の社会学的考察——滋賀県野洲郡野洲町三上の事例——」『佛大社会学』二、六〇〇七六
- 徳永 幾久 一九七八 「産育に関する生活史的研究——山形県における明治・大正期のいづめについて——」『農村文化論集』(農村文化研究所) 一、一九〇三四
- 都丸十九一 一九五七 「群馬県における火とほし行事について」『日本民俗学』

- 直江 廣治 一九五二 「屋敷神」『民間伝承』一六一九、四〇〜四三  
一九五六 「地神と荒神」一・二 『日本民俗学』三十三・四、一〜  
一三、二四〜四三
- 長岡 博男 一九五二 「能登の『よぼしご』」『民間伝承』一六一二、七〜一  
〇
- 長沢 利明 一九七九 「平川流域の山神祠」『日本民俗学』一二六、三五〜四八  
中牧 弘允 一九八三 「岡山県美作地方の雨乞習俗に関する一考察——奈義町  
の事例を中心に——」『人類科学』三五、一八一〜二〇  
五
- 中俣 均 一九八五 「地図でみる年中行事」『言語生活』三九七、五六〜六三  
中村 昌治 一九八〇 「伊豆地方の開創神について」『民俗学論叢』（相模民俗  
学会）二、六七〜七六
- 一九八五 「三島神社の信仰と相模地域における同社の分布」『民俗  
学論叢』五、二二三〜三二
- 西岡 芳文 一九八九 「東京・『王子田楽』の復活」『歴史評論』四七三、一四〜  
二八
- 西谷 勝也 一九六五 「兵庫県における鬼の踊について」『岡山民俗』（創立十  
五周年記念講演特集号）七〜一三
- 羽賀 祥二 一九八二 「東北各県の中小教院と仏教——教部省官員石丸八郎の  
活動を通して——」『佛教史学研究』二五一一、九二〜  
一二六
- 萩原 左人 一九八五 「沖縄の正月豚——沖縄本島北部与那嶺における豚飼育  
と儀礼——」『民俗学評論』（大塚民俗学会）二五、六六  
〜七四
- 萩原 竜夫 一九五六 「歳事儀礼における文化変容の問題」『人類科学』八、五  
八〜六六
- 服部 清道 一九七〇 「三浦半島の庚申塔——西海岸地帯——」『三浦古文化』  
四一三、七一〜八〇
- 早川孝太郎 一九五五 「収穫の祭り——稲の収穫をめぐる——」『新論』一一五  
（『早川孝太郎全集』八 一九八二 未来社、四〇二〜四  
一三）
- 樋口 昭 一九八五 「丹後半島の民俗音楽」『人類科学』三七、五一〜七九  
平野 博之 一九六一 「宮司制の成立——上——」『九州史学』一七、三三〜四  
四
- 久下 隆史 一九八〇 「市原田楽と宮座の報告——兵庫県多紀郡今田市原・  
住吉神社——」『日本民俗学』一二七、三三〜五〇
- 藤井 昭 一九八三 「安芸東部地方における宮座の『名』について」『広島女  
学院大学論集』三三、一七〜三四
- 藤田 稔 一九六九 「地藏信仰の一考察——鎌倉及び茨城を中心として——」  
『日本民俗学会報』六四、三六〜五三
- 藤森 裕治 一九八五 「死と豊穣——日本民俗の畑作文化的要素に関する一考  
察——」『日本民俗学』一六一、五〇〜七七
- 堀内 真 一九八五 「山梨県下のオヤシマイ・シュウトムライ」『信濃』三  
七一、三六〜五一
- 堀田 吉雄 一九五四 「大天白神考」『日本民俗学』二一、五四〜九一
- 牧野 真一 一九八二 「民間信仰の地域差——関東の屋敷神について——」『日  
本民俗学』一四四、五六〜六九
- 益子 輝之 一九八九 「上田・小県地方の三頭獅子」『信濃』四一一、二六〜  
三七
- 町田 嘉章 一九五九 「日本民謡の詞曲形態から見た時代性と地域性」『日本民  
俗学大系』一〇 平凡社、一四三〜一七五
- 松崎 憲三 一九八五 「山の神祭りにおける木製祭具の研究」『国立歴史民俗博  
物館研究報告』七、四二五〜四四五
- 宮家 準 一九八〇 「修験道の峰入りと卯月八日」『日本民俗学』一二八、二  
二〜四三

- 三崎 一夫 一九七三 「宮城県における市神の分布」『東北民俗』八
- 宮田 登 一九八三 「稲荷信仰の浸透と民衆」『民衆宗教史叢書』三 雄山閣出版、一三七～一五〇
- 宮本 常一 一九六四 「大田と大田植」『芸能史研究』五、一～一三
- 一九六六 「民俗学と民俗芸能と」『芸能史研究』二二、二〇～三二
- 三隅 治雄 一九八五 「民俗芸能の有効な保存伝承方法の確立に関する調査研究(第一部)」『芸能の科学』一五：芸能論考Ⅷ 一五～一八、一～二五
- 最上 孝敬 一九五五 「両墓制の分布について——神奈川県と両墓制——」『民俗』一三、一～三
- 森栗 茂一 一九七九 「農民のまつる山の神について——近江盆地を中心として——」『日本民俗学』二二六、二八～三四
- 守屋 毅 一九六四 「農村歌舞伎研究の問題点」『芸能史研究』六、四〇～四九
- 山岸 共 一九八七 「近畿と白山信仰」『歴史手帳』一五一、四～九
- 山口弥一郎 一九六八 「おしんめいさま信仰の南限」『民間伝承』二八〇 三二一、五〇～五二
- 一九七九 「おしんめいさまと姥神・修験道と如意輪観音の民間信仰の問題」『日本民俗学』一二六、一八～二七
- 一九八〇 「民俗伝承の経路と多様性」『山口彌一郎選集』一二 世界文庫、一九三～二一三
- 山下 欣一 一九八一 「奄美のユタの成巫の問題——二・三の事例を通じて——」『民俗学研究所紀要』(成城大学民俗学研究所)五、一〇一～一四九
- 山田 宗睦 一九七八 「年中行事にみる日本文化の構造」『日本人の原点——文化・社会・地域差——』二 至文堂、二一～四
- 和田 正洲 一九八三 「徳之島の水神祭祀」『民俗学論叢』(相模民俗学会)四、四四～五七
- 和田 唯男 一九七五 「西美濃の民俗芸能に見る近江文化の影響」『日本民俗学』九八、二六～三〇
- 八 言語・文芸
- 赤祖父哲二 一九六九 「言葉と風土」開文社出版
- 浅川 清栄 一九五三 「信州における方言の分布」『信濃』五二、一八～二五
- 飯田 毅一 一九六八 「利根川流域の言語分布——文法について——」『人類科学』二〇、一四五～一五六
- 石沢 進 一九八六 「ユキツバキの分布限界地における椿の地名と言い伝え」『高志路』新潟県民俗学会 二八一、二五～二八
- 石山 宣昭 一九七六 「米福栗福小考」『日本民俗学』一〇七 三五～四九
- 一志 茂樹 一九五二 「地名と国史の考察」『信濃』四一、七三～八六
- 井之口章次 一九五九 「お化けの地方色」『言語生活』九四、一六～二三
- 井上 章 一九八九 「稲作用地名と神話・伝承」『秋田大学教育学部研究紀要』人文科学・社会科学』四〇、一～一四
- 井上博文・上野智子・室山敏昭 一九八九 「瀬戸内海地域方言における性向語彙の地域性と変容に関する調査研究(その一)——愛媛県宇和島市方言を中心にして——」『内海文化研究紀要』一七、三七～九三
- 井上 史雄 一九九〇 「新方言の分布パターン」『人類科学』四二、一七～一八
- 岩井 隆盛 一九六〇 「言語学と民俗学」『日本民俗学大系』一 平凡社、二六二～二七四
- 岩崎 敏夫 一九八七 「福島県における昔話の分布と分類」『東北文化研究所紀要』東北学院大学東北文化研究所 一九、一～三四
- 植木 行宣 一九七六 「民俗芸能分布試論——丹後における風流踊をめぐって」『芸能史研究』五三、一～一五
- 一九八七 「民俗芸能分布試論」『芸能史研究』六一、一二～一三

- 牛島 盛光 一九六二 「須恵村のかたり——その社会的機能と変容過程——」  
『民族学研究』（日本民族学協会）一六一三、一四一—二二
- 上野 勇 『方言地理学』上 廣川書店
- 牛山 初男 一九五三 「中部日本における近畿方言の分布一・二——主として語法的な面から——」『信濃』一〇一—一〇二、三五—四二、四三—四九
- 江端 義夫 一九八五 「二、三の語の分布からみた関東・東海東山方言の境界線について」『信濃』七一—、一二—一八
- 太田 陸郎 一九三七 「方言と沿岸環境——沿岸部方言の伝播モデルについて——」『人類科学』三七、二一—五〇
- 大橋 勝男 一九七六 『関東地方域方言事象分布地図一 音声篇』桜楓社  
一九七六 『関東地方域方言事象分布地図二 表現法篇』桜楓社  
一九七六 『関東地方域方言事象分布地図三 語彙篇』桜楓社
- 岡村 英 一九八一 「大子地方の方言について」『大子町史研究』九、六一—七二
- 小川 徹 一九六一 「南西諸島における親族称呼とその分布構造——社会地理学的研究——」『法政大学文学部紀要』七一—二  
一九六二 「沖縄諸島における親族称呼の地域差について」『民族学研究』二六—三三、六三—六四
- 奥里 将建 一九六一 「日本地名の東展と南展——南展の担い手は平家——」  
『地名学研究』一九・二〇、二二—三五
- 奥村 三雄 一九七三 「対馬方言の性格」『九州文化史研究所紀要』一八、八三—二二  
一九七八 「九州諸方言アクセントの系譜」『九州文化史研究所紀要』二二、五五—七九
- 加藤正信・井上史雄 一九六九 「利根川流域の音韻」『人類科学』二一、一四五—一七四
- 金井 由九 一九八二 「四つ仮名発音の地域的変異の発生過程」『群馬大学教養部紀要』一六、一九—三八
- 川副 博 一九四三 「武家時代に於ける方位混入郡名に就いての補正」『歴史地理』二八—四、三九、四〇
- 鏡味 完二 一九三二 「海岸の地名、船越、福良等の分布」『地理学評論』一八—一五、四一—六六  
一九四二 「海岸の地名、網代、白浜、塩屋等の分布」『地理学評論』一八—三、四三—六五
- 江端 義夫 一九四二 「海岸の地名、磯、瀬戸等の分布」一・二 『地理学評論』一八—七・八、四〇—六〇、三四—四九
- 太田 陸郎 一九四二 「琉球列島に於ける地名の分布」一・二 『地理学評論』一八—一・二、五二—六八、二八—四四
- 大橋 勝男 一九五九 「日本の地名分布における二三の傾向——重心・空洞・対立——」『地名学研究』一〇・一一、七—一九
- 岡村 英 一九六三 「音韻・アクセントによる日本語の方言区画」『人類科学』一五、一三七—一四九
- 小川 徹 一九八六 「植物の方言名にみる命名の民俗学的考察」『日本民俗学』日本民俗学会 一六八、五九—六八
- 川名 興 一九八七 「歴史地理学における地域復原の資料としての地名——国府の場合——」『国学院大学大学院文学研究科紀要』国学院大学大学院 一八、五六—七九
- 木下 良 一九八七 「民話と地方文化」『芸備地方史研究』四五、二—一〇
- 熊田 重邦 一九八七 「『ナダ』地名考——熊野灘の範囲を中心に——」『くちくまの』紀南文化財研究会 六八、一—二二
- 桑原 康宏 一九八七 「年中行事の中の方言——半夏生を例として」『言語生活』三九七、四六—五二
- 倉石 忠彦 一九八七 「垣内の民俗的類型とその地名」『近畿民俗』四三、二六—
- 倉田 正邦 一九六七 「方言と沿岸環境——沿岸部方言の伝播モデルについて——」『人類科学』二一、一四五—

- 〓三五
- 一九六八 「鶯の方言と民俗」『近畿民俗』四五、二四〇〜二九
- 一九七三 「地名ムタについて」『日本民俗学』八五、七〇〜七一
- 小林 泰秀 一九八三 「津軽方言の音韻規制」『広島女学院大学論集』三三、一  
一三〇〜一三四
- 齊藤 尚文 一九九〇 「新潟市近郊村落における序列型親族語の用法とその変  
化」『人類科学』四二、五〜八
- 笹谷 良造 一九五七 「葛神と藤神」『日本民俗学』五一、二五〜三六
- 佐藤 暢男 一九七七 「牛の方言の型と比較」『近畿民俗』七四、四〜一四
- 佐藤甚次郎 一九八一 「炊事用空間のカマヤとミズヤの呼称の分布——日本の  
住家系統とその分布・地域的変容に関する一つのアプロ  
ーチ——」『歴史地理学』一一、一〜一八
- 佐藤 虎男 一九九〇 「瀬戸内海東部域の言語流動に関する一考察——性向語  
彙に注目して——」『内海文化研究紀要』一八・一九合併  
号、一六五〜一七五
- 柴田 武 一九六三 「単語の全国分布」『人類科学』一五、一四九〜一七六
- 一九六五 「下北方言の分布」『人類科学』一七、七二〜八七
- 一九七〇 「鳥追い歌の変遷」『日本民俗学』六九、一〜二二
- 柴田 武・三石泰子 一九七四 「同一文化を反映する神社分布と語彙分布」『日  
本民俗学』九二、二九〜四二
- 下野 敏見 一九八〇 「南西諸島の昔話の特性——日琉民俗比較の視点より  
——」『隼人文化』七、三六〜四三
- 一九八一 「南西諸島昔話の特色——日琉民俗比較の視点より——」  
『南西諸島の民俗』』法政大学出版局、四七六〜四八七
- 関 敬吾 一九四〇 「蛇簪入譚の分布」『民族学研究』六四、一〜三四  
『関敬吾著作集』四、一九八〇 同朋舎出版、二八〜五  
八
- 一九五九 「昔話の分布——とくに昔話・笑話・動物譚——」『日本  
民俗学大系』一二 平凡社、二五三〜二八一  
『関敬吾著作集』三、一九八一 同朋舎出版、一〇九〜  
一四二
- 関口 武 一九四〇 「風の地方名の二、三に就いて」一・二 『地理学評論』  
一六・六・七、二二〜三三、一七〜四〇
- 一九四二 「風の地方名の研究(三)山から吹出す風の名称 特にダシ  
に就いて」『地理学評論』一八一三、二四〜四二
- 一九四二 「風の地方名の研究(四)暴風の名称 主として台風来襲時  
に於ける名称について」『地理学評論』一八一六、一六  
〜四七
- 谷 良治 一九九〇 「海岸地名分類試論」『加能民俗』一二七、一〜一二
- 千葉 徳爾 一九七五 「地名と地域史」『地方史研究』一三七、一〇〜二五
- 一九八五 「ヒロシマに行く話——ムラびとの広域志向性——」『日  
本民俗学』一五七・一五八、一〜一一
- 「方言の分布と地域性——農村語としての稲村の称呼  
——」『地理学』九一〇
- 角田 一郎 一九六九 「農山漁村の近世劇舞台実地調査概況」『芸能史研究』二  
五、五六〜六〇
- 徳川 宗賢 一九六四 「〓ことば〓から見た日本の地域区分」『人類科学』一六、  
一一三〜一二四
- 一九六九 「利根川流域における単語の分布」『人類科学』二一、二  
二〜三二
- 一九七九 『日本の方言地図』中央公論社
- 一九八三 「言語使用の地域差」『人類科学』三五、二九〜四一
- 徳川 義親 一九三四 「木曾考」『歴史地理』六四一四、一〜三二
- 徳富 重成 一九八五 「徳之島の地名と文化」二 『鹿児島民俗』八二、二三〜  
三五
- 中野 弘 一九四〇 「我国の山の名の分布」一・二 『地理学評論』一六一〜一〇・

- 一、二五〇、二五〇、二五〇〇
- 中本正智・篠崎晃一 一九八九 「与論島方言におけるアクセント変化」『人文学報』二〇七、一〇二九
- 中村 茂子 一九八七 「獅子踊歌の歌詞構成様式——秋田県・埼玉県を中心に——」『民俗芸能研究』民俗芸能学会 六、一九〇三〇
- 長岡 博男 一九四三 「『しょうぶわけ』の事」『民間伝承』八一〇、三八〇、三八〇
- 野元菊雄・野林正路監修 一九七七 『ことばと文化』八日本語と文化・社会三〇〇
- 橋本 進吉 一九二八 「歴史上から見た日本方言区画」『民族』三一四、一一〇
- 福沢 武一 一九五四 「長野県上伊那郡における東西両方言の境界」『信濃』六一、一〇一
- 福田 晃 一九七八 「昔話の地域性——東西の二類型をめぐって——」『講座・日本の民俗』九 有精堂、六二〇九〇
- 堀 立熙 一九八二 「越前万歳(野大坪万歳の特異性)」『歴史手帖』一〇一四、三七〇四三
- 町 博光 一九八四 「西表島舟浮集落の方言敬語法」『広島女子大学文学部紀要』一九、四九〇五七
- 三上 義夫 一九三九 「垣戸・貝戸・谷土・谷津の地名について」『歴史地理』七三〇四、三七〇四三
- 美濃 晃順 一九五四 「地名からみた文化の浸透路」『加能民俗』二一九、二〇五
- 宮本 達郎 一九七一 「長野県上田小県地方に分布する伝説についての一考察」『信濃』二二〇八、六四〇八二
- 宮良 当壮 一九三五 「東北方言概相」『民族学研究』一一、一九九〇一七七
- 一九五四 『風土と言葉』岩崎書店
- 昔話研究懇話会編 一九八四 『昔話の地域性』三弥井書店
- 藪原 繁里 一九八五 「方言意識と方言分布」『信濃』三七〇一、六三〇七四
- 山口麻太郎 一九三八 「壹岐岡地名考」『歴史地理』七二〇四、六一〇六七
- 山口 貞夫 一九四〇 「沿海地名雑記」一〇四 『民間伝承』五一〇一、二二〇、二二〇、二二〇、二二〇、二二〇
- 山口 幸洋 一九八一 「沿海地名雑記」五〇六 『民間伝承』六一〇四、五、二〇二
- 横山 正 一九七〇 「かたつむり方言の変化がもつ地理的意味について」『国語学』二二六、一三二二九
- 九 その他
- 安藤 保 一九六五 「近世薩藩の浮免について(一)——給知系浮免の種類と性格——」『九州史学』三三、一四〇二八
- 一九六六 「近世薩藩の浮免について(二)——蔵入地系浮免の種類と性格——」『九州史学』三五、四〇〇五二
- 石井 英也 一九八六 「日本における民俗地域の形成とその地理学的意味——地域生態論の一つの試み——」『筑波大学人文地理学研究』筑波大学地球科学系 X、四三三〇六〇
- 大塚 英二 一九八九 「水利秩序の変容と地域村落間格差——近世後期の遠州地方の用水相論を通して——」『地方史静岡』一七、一二〇四六
- 木村 礎 一九七七 「日本歴史における『地方』と『中央』——地域論によせて——」『駿台史学』四二、一〇一七
- 窪 徳忠 一九七六 「沖縄における中国的習俗」『民族学研究』(日本民族学会)四一、一三、一八五〇二二
- 栗島 義明 一九八六 「槍先形尖頭石器器群の研究序説——中部日本における地域的様相の把握——」『考古学研究』考古学研究会

三三一四、一〇〇四一

桑原公德・磯永和貴・磯西重行・政岡伸洋・田村裕司 一九八九「鳥取県能義郡の地形図とその活用」『仏教大学院研究紀要』一七、四六〇七二

佐々木 博 一九九〇「房州白浜町の地域変容」『筑波大学地域研究』八、一〇四二

下野 敏見 一九八一「二つの文化——奄美と鹿児島」『南西諸島の民俗』二、法政大学出版局、五二〇〇五二二

関口 功一 一九八六「長田郡と足柄郡——地域編成区分としての『上・下』——」『史苑』立教大学史学会 四五—一、二六〇四一

千葉 徳爾 一九六四「志摩半島における民俗の地域差とその意味——予察的報告」『人文地理』一六—五、一〇—四

西山 禎一 一九六六「鎮国の形成と九州」『九州史学』三三・三四、三二—四〇

橋口 尚武 一九八七「伊豆半島からみた律令体制の地域的展開——堀形土器を中心として——」『考古学研究』考古学研究会 三三—四、七二—九〇

広瀬 鎮 一九八九「アニマル・ロアの地域比較研究——都市聖境空間におけるニホンザルの民俗——愛知県西春日井郡清洲町日吉神社——」『名古屋学院大学論集社会科学篇』二五—四、一三七—一七二

一九九〇「アニマル・ロアの地域比較研究論——山形県白布温泉にみられる白猿伝承形成の都市民俗学研究——」『名古屋学院大学論集社会科学篇』二六—三、三三三—三六六

一九九〇「アニマル・ロアの地域比較研究——山形県米沢市綱木地区にみられたニホンザルの民俗」『名古屋学院大学論集社会科学篇』二六—四、六五—九一

松井 潔 一九八六「後期弥生土器の小地域性」『考古学研究』考古学研究会

三三一、三九〇六九

松崎憲三・大本憲夫 一九九〇「山村生活の再編——宮城県伊具郡丸森町筆甫」『西郊民俗』一、二八、一—六

宮良 高弘 一九八六「北海道にみる生活文化の諸相」『歴史手帖』一四—九、四—一

山本 光正 一九八七「諸国人にとっての江戸——社寺参詣者を中心として——」『国立歴史民俗博物館研究報告』一四、国立歴史民俗博物館 三三五—三五五